

令和2年度
授業要項 SYLLABUS
理学療法学科



学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校

基礎分野

科目名	心理学	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	川野卓二		
科目の概要	人の心や精神を科学としての心理学の方法を用いて理解するための枠組みとなる基本的な事柄を授業で取り上げる。心理現象を様々な立場から理解し判断できるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	序：心理学とは？ なんのために学ぶのか？		
2	適応と不適応		
3	行動と欲求・動機づけ		
4	パーソナリティ		
5	対人認知と社会的態度		
6	コミュニケーション		
7	集団の働きとリーダーシップ		
8	成長と発達		
9	知能と創造性		
10	知覚・認知と経験		
11	記憶と忘却		
12	感情・情動と行動		
13	本能的行動と学習行動		
14	心理学の方法		
15	さまざまな心理学		
16	心理学のこれから		
17	定期試験		
18			
教科書及び参考書	教科書：サトウタツヤ・渡邊芳之（著）「心理学・入門」有斐閣アルマ		
教授方法	講義		
教材	適宜、資料を配布する		
成績評価	まとめノート（30％）・課題（20％）・定期試験（50％）を総合評価する		
	備考		
(1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。)			

科目名	心理学	1 単位 30時間	1学年 後期
講師名	川野卓二		
科目の概要	患者に対する実践的な応用心理学の理解と自己理解を基盤にした自己実現に向けた演習を行う。医療従事者として現場における即効的・実践的な知識・技術を習得するために、一般心理学の知識を踏まえて社会人基礎力の基礎を獲得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	今後必要とされる力：社会人基礎力(1)		
2	心の問題と問題解決		
3	患者の心理と援助		
4	病気と不安		
5	障害者の心理と援助		
6	社会人基礎力(2)		
7	発達・成長の心理学		
8	自己理解の方法		
9	学習方法		
10	社会人基礎力(3)		
11	コミュニケーション：文章力・会話力		
12	人間関係・協働力		
13	ストレスマネジメント		
14	恋愛・結婚・家族形成		
15	心理的健康と幸福感		
16	定期試験		
17			
18			
教科書及び参考書	なし		
教授方法	講義と演習		
教材	適宜、配布資料を用いる		
成績評価	まとめノート（30％）課題（20％）定期試験（50％）を総合的に評価する		
	備考		

科目名	文学	1 単位 30時間	1学年 前期
講師名	余郷裕次		
科目の概要	子どもが最初に接する文学である絵本を取り上げて、その視覚表現と文字表現とのメカニズムを明らかにする。また、文学（絵本）を享受する側のメカニズムを視覚と聴覚との両面から明らかにする。さらに、日本の伝統的短詩形文学である短歌を取り上げて、短歌の実作に取り組む。		
	講 義 内 容		
	1. 絵本の視覚表現について、次の観点から講義する。 ① フロントリティー（正面性） ② 画面構成 ③ 色の効果 ④ 進行方向 ⑤ 絵本モンタージュ 2. 絵本の文字表現について、次の観点から講義する。 ① 繰り返し表現 ② 物語性 ③ 文字のデザイン 3. 絵本を享受するメカニズムについて、次の観点から講義する。 ① ベビーシエマ（赤ちゃんの顔）の効果 ② 色の効果 ③ 母親語（motherese）の効果 4. 短歌を取り上げて、自作に取り組む。 ① 短歌創作の基礎 ② 短歌の創作 ③ 短歌の連作の創作 ④ 歌集の制作		
教科書及び参考書	余郷 裕次 著 『絵本のひみつ ― 絵本の知と読み聞かせの心 ― 』 徳島新聞社		
教授方法	講義		
教材	配付プリント		
成績評価	出席、講義への参加態度、レポート、定期試験等を総合的に評価する		
	備考		

科目名	教育学	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	湯地宏樹		
科目の概要	本授業は、本学のカリキュラムにおける【基礎分野】に位置づけられる科目である。 「教育とは何か」について、理学療法士、作業療法士としての自分の問題として振り返ることを目的としている。そのために、保健・医療・福祉の分野と保育・教育学の分野との接点を探りながら、乳幼児期からの人間の成長と発達における教育の意義について考察するとともに、学習指導や生活指導の方法や技術について具体的に学んでいく。		
回数	講 義 内 容		
1	社会の中の看護と教育		
2	教育とはなにかー「教育」の概念		
3	教育の対象ー子ども観と発達		
4	社会変動と教育		
5	教育の組織化ー学校		
6	教授ー人を教えるということ		
7	訓育ー他者とのかかわりを導く		
8	養護ー教育の受け手を見まもる		
9	発達ー教育を受けて成長する		
10	学びの場ー学校と家庭		
11	教育の目標と評価		
12	教育のメディアー教育をデザインする		
13	教育の担い手ー専門性と専門職性		
14	教育の場をつくるしくみ		
15	まとめ		
16	定期試験		
教科書及び参考書	『系統看護学講座 基礎分野教育学(第7版)』医学書院, 2015年 (ISBN978-4-260-02003-9)		
教授方法	授業はおもに講義形式で行う。		
教材	視聴覚教材を使用する。また随時、資料を配布する。		
成績評価	定期試験 (50%)、レポート課題 (30%)、授業への参加度 (20%) を総合的に評価する。		
	備 考		
授業はプレゼンテーションソフトを用いて行うので、ノートを活用すること。			

科目名	社会学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	平井 昭夫		
科目の概要	社会学の目的は、(1)私たちの身近にある様々な社会現象を学びつつ、(2)社会学的な思考力を身につけていくことにある。講義では、学ぶことを通じて、私たちを取り巻く世界を知り、社会のしくみを理解する。そして自分はどのような社会を生きており、そこで何をしたいのか、何ができるのかを考える出発点としたい。具体的には、①私たちの社会にかかわる様々な課題を取り上げ、いかに考え対処していくのか、②古今東西のリーダーが残した言葉を学び、現代社会に生きる私たちの在り方や役割は何か、などを柱に学習する。加えて、将来の職業人としての資質を養う。		
回数	講 義 内 容		
1	1. 社会学を学ぶ意義 ○講義の内容・進め方等についてオリエンテーションを実施		
2	2. 格差と貧困	○なぜ格差問題か	○格差は拡大しているか
3	格差と貧困	○現代社会の貧困	●リーダーに学ぶ(1)
4	3. 恋愛と結婚	○恋愛と結婚の関係	○日本の家族の歴史
5	恋愛と結婚	○結婚と家族の現在	
6	4. ジェンダー	○ジェンダーを理解する	○グローバル化する性別役割分業
7	5. 関係性と暴力	○DVを理解する	○ハラスメントを理解する
8	関係性と暴力	○なぜ暴力に頼るのか	●リーダーに学ぶ(2)
9	6. 権力	○社会学における権力論	○私たちをとりまく権力
10	権力	○権力作用としての差別	●リーダーに学ぶ(3)
11	7. 儀礼と自己	○現代の儀礼	○自己をめぐる社会学
12	8. 自殺	○現代日本の自殺	○社会学における自殺論
13	9. 医療	○近代医療を理解する	○民族医療と代替医療
14	医療	○医療化する社会	●リーダーに学ぶ(4)
15	10. 社会の中で働くこと	○感情労働の発見	○感情労働としてのケア ●リーダーに学ぶ(5)
	定期試験		
教科書及び参考書	教科書は使用しない		
教授方法	講義が単調にならないように配慮し、「穴埋め式」のプリントを作成・配布し、学生は講義を聞き記入しながら学習する。また、いくつかのテーマを与えレポートの提出を求める。		
教材	講義用「穴埋め式」のプリント、資料プリント、レポート用紙・・・講師のほうで準備する。		
成績評価	課題提出(10回程度)・・・1回3点を標準とし30点満点、試験・・・70点満点とする。		
備 考			
講義、レポートの提出・返却等を通じて、学生とのコミュニケーションを図る。			

科目名	物理学	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	和田英作		
科目の概要	人体の骨格や筋は力学と、血流や血圧は流体と、神経や心電、脳波は電気と関係があり、物理学は医学の基本として重要なものであることを理解する。また、物理学の本質である論理的にものを考える力を体得する。		
回数	講 義 内 容		
1	物理学の内容、物理学を支える 5 本柱（力学、熱学、波学、電気学、量子学）		
2	物理量の基本単位（MKSA 単位系）、原子構造		
3	1. 力学の世界 (1) 位置 (2) 速度 (3) 加速度		
4	(4) ベクトルと物理量 (5) 力と運動		
5	(6) 円運動と単振動		
6	(7) 運動量と衝突		
7	(8) 仕事量とエネルギー (9) つり合いと変形		
8	2. 熱の世界 (1) 温度 (2) 熱量 (3) 物質の三態		
9	3. 流体の世界 (1) 流体と浮力 (2) 流体の性質		
10	(3) 連続の式と注射 (4) 血圧と注射		
11	4. 波と光と音の世界 (1) 波の表し方 (2) 波の進行速度		
12	(3) 光と色 (4) レンズと光の屈折 (5) 音の 3 要素		
13	5. 電気と磁気の世界 (1) 電荷・電場・電流 (2) 交流		
14	6. 放射線と微視の世界 (1) 物質の微視的階層と 4 つの力		
15	(2) 放射線の発生 (3) 放射線の医療への利用		
16			
教科書及び参考書	中村正博：「看護・医療技術者のためのたのしい物理」 日本理工学出版社		
教授方法	物理学各分野と医療との関わりを説明し、理解を深めるため例題を解説する		
教材	演習問題のプリントを配付する		
成績評価	定期試験の成績で評価する		
	備考		
物理学に興味を持ち受講して欲しい。			

科目名	生物学	1 単位 30時間	1 学年 前期
講師名	山口 寛		
科目の概要	理学療法士、作業療法士として必要な生物学の基礎知識を広く学習する。 細胞、組織器官、器官系の構造と働き、物質代謝とエネルギー代謝、恒常性の維持などについて科学的に学習していく。		
回数	講 義 内 容		
1	第 1 章 生物と細胞		
2	細胞の構造と機能		
3	細胞の構造と機能（細胞の増殖と測定）		
4	第 2 章 個体の成り立ち（組織）		
5	個体の成り立ち（器官）		
6	個体の成り立ち（器官系）		
7	第 3 章 細胞生理 原形質の化学組成		
8	細胞膜の働き		
9	第 4 章 生体内の物質の流れと働き		
10	物質代謝（同化）		
11	物質代謝（異化）		
12	異化生成物（腎臓の構造と働き）		
13	第 5 章 からだの恒常性の維持		
14	内部環境としての体液（血液の働きと血液型）		
15	血液によるからだの防衛（抗原抗体反応）		
16			
教科書及び参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、 演習		
教材	必要に応じて資料作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
受講に対する留意点など：予習と復習に励む。			

科目名	生物学	1 単位 30時間	1学年 後期
講師名	山口 寛		
科目の概要	前期に継続して学習を進める。 後期では、からだの恒常性維持、神経系とその働き、刺激と反応、生命の連続性について、DNA中心に分子生物学についても学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	第5章 からだの恒常性の維持		
2	神経系とその働き		
3	第6章 外的刺激の受容		
4	感覚器とその働き		
5	からだの内部感覚		
6	第7章 生殖 減数分裂		
7	生殖と受精		
8	第8章 発生 発生の順序		
9	ヒトの発生		
10	発生のしくみ（オルガナイザー等）		
11	第9章 遺伝 メンデルの法則		
12	連鎖と交叉		
13	ヒトの遺伝（血液型、色盲、血友病等）		
14	核酸DNA等の構造と働き		
15	たんぱく質と形質発現、遺伝子組み換えについて		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	新体系看護学基礎科目 「生物学」 メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社		
教授方法	講義、問題演習		
教材	必要に応じて資料（プリント）作成		
成績評価	定期試験、レポート		
	備考		
受講に際する留意点など：予習と復習に励む。			

科目名	統計学	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	小柴 俊彦		
科目の概要	データの取り方, まとめ方, 統計的推測の基本的考え方を学習し “ 統計学に基づく考え方” を養う。 学習内容：1. データの整理（1 次元データ, 2 次元データ） 2. 代表値と散布度, 相関係数 3. 確率変数と確率分布（正規分布と応用, t 分布等） 4. 統計的推測の考え方と検定の方法		
回数	講 義 内 容		
1	1. データの整理		
2	(1) 度数分布表 (2) 度数分布表の図示 (ヒストグラム, 度数折線)		
3	2. 代表値と散布度, 相関係数		
4	(1) 代表値		
5	(2) 散布度		
6	(3) 相関係数		
7	3. 確率変数と確率分布		
8	(1) 確率変数		
9	(2) 正規分布		
10	(3) いろいろな確率分布		
11	4. 統計的推測		
12	(1) 統計的推測の考え方		
13	(2) 母平均の検定		
14	(3) 母平均の差の検定 (Ⅰ)		
15	(4) 母平均の差の検定 (Ⅱ)		
16	(5) いろいろな検定		
教科書及び 参考書	「基 礎 統 計」著者 高遠節夫他 2 名：培風館		
教授方法	プロジェクターを用いての講義と演習		
教材	配布資料		
成績評価	定期試験と演習課題		
	備 考		
授業中に指示された演習課題は必ず提出すること。			

科目名	英語	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	三浦 博		
科目の概要	今日、病院を訪れる外国人が増えているし、また医療の現場で使われる英語もある。この授業は英会話を聞いて理解し、また病院などで使われる英語に関して理解力を高めるのが目的である。教科書は下記の 2 冊を使う。教科書①は英会話の理解力を高めるために使う。毎週授業毎に 1 Lesson ずつ進む。教科書②は病院の現場を想定して作られたテキストであり、病院の治療現場に関係した会話、用語が多く使われている。このテキストは毎週使うが、進むスピードに関しては毎週 1 Unit ずつ進むのではなく、時間の許すかぎり前に進んでいくという形になる。さらに、授業の途中でリラックスする目的で英語の歌が紹介される。		
回数	講 義 内 容		
1	教科書① Lesson 1)	“Description”	「Unit 1」
2	〃 Lesson 2)	“Recorded Messages”	「Unit 1」
3	〃 Lesson 3)	“Conversation 1”	「Unit 1」
4	〃 Lesson 4)	“Position”	「Unit 2」
5	〃 Lesson 5)	“Math Quiz 1”	「Unit 2」
6	〃 Lesson 6)	“Announcement”	「Unit 3」
7	〃 Lesson 7)	“Graph 1”	「Unit 3」
8	〃 Lesson 8)	“News”	「Unit 4」
9	〃 Lesson 9)	“Quick Response”	「Unit 4」
10	〃 Lesson 10)	“On the Radio”	「Unit 5」
11	〃 Lesson 11)	“Interview on the Street”	「Unit 5」
12	〃 Lesson 12)	“Speech”	「Unit 6」
13	〃 Lesson 13)	“Conversation 2”	「Unit 6」
14	〃 Lesson 14)	“Math Quiz 2”	「Unit 7」
15	〃 Lesson 15)	“Report”	「Unit 7」
	定期試験		
教科書及び参考書	①「Hyper Listening(Intermediate)」3rd Edition 桐原書店 ②「20Medical Dialogs」古閑博美、垂石幸与、他著 鷹書房弓プレス		
教授方法	講義、演習、小テスト		
教材	教科書 2 冊、講師作成のプリント、CD		
成績評価	定期試験		
	備考		
教科書②に関して、毎週授業ごとに前の週の内容に関する小テストを実施する。また、教科書①に関しては CD がついており、各人が各人クラスへ来る前に CD で家庭学習できるようになっている。			

科目名	医学英語	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	三浦 博		
科目の概要	卒業後理学療法士、作業療法士として働くとき、英語で書かれた本や論文を読む必要が出てくるかもしれない。その時のために、医療の現場でよく使われる英語表現に慣れ親しんでおくというのがこの授業の目的である。教科書は2冊使う。教科書①は前期から継続して使うものであり、教科書②は長文を学習するために使用される。		
回数	講 義 内 容		
1	教科書① 「Unit 10 : 1」	リハビリ室での会話	教科書② Chapter 1 : 1
2	〃 「Unit 10 : 2」	リハビリ室での会話	〃 Chapter 1 : 2
3	〃 「Unit 11 : 1」	基本的指示とリスク対策	〃 Chapter 2 : 1
4	〃 「Unit 11 : 2」	基本的指示とリスク対策	〃 Chapter 2 : 2
5	〃 「Unit 12 : 1」	関節可動域訓練	〃 Chapter 3 : 1
6	〃 「Unit 12 : 2」	関節可動域訓練	〃 Chapter 3 : 2
7	〃 「Unit 13 : 1」	早期座位とベッドサイド訓練	〃 Chapter 4 : 1
8	〃 「Unit 13 : 2」	早期座位とベッドサイド訓練	〃 Chapter 4 : 2
9	〃 「Unit 14 : 1」	車椅子と移乗動作	〃 Chapter 5 : 1
10	〃 「Unit 14 : 2」	車椅子と移乗動作	〃 Chapter 5 : 2
11	〃 「Unit 15 : 1」	マット上訓練	〃 Chapter 6 : 1
12	〃 「Unit 15 : 2」	マット上訓練	〃 Chapter 6 : 2
13	〃 「Unit 16 : 1」	立ち上がり訓練	〃 Chapter 7 : 1
14	〃 「Unit 16 : 2」	立ち上がり訓練	〃 Chapter 7 : 2
15	〃 「Unit 17 : 1」	歩行訓練	〃 Chapter 8 : 1
	定期試験		
教科書及び参考書	① 「20 MEDICAL DIALOGS : 木関博美、垂石幸与、他著 (鷹書房弓プレス) ② THE ART OF HEALING : 荒金房子、村上仁之、マーク・レモン著 (南雲堂) ③ 講師が作成したプリント		
教授方法	講義、演習、小テスト		
教材	教科書2冊、プリント、CD		
成績評価	定期試験		
	備考		
前の週の授業内容に関する小テストを実施する。このことにより、どれだけ身についたかが試される。			

科目名	保健学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、定期的な運動（トレーニング）による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、生活習慣病の予防・健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	わが国の健康関連状況		
2	トレーニングと骨格筋代謝		
3	トレーニングと呼吸循環機能Ⅰ		
4	トレーニングと呼吸循環機能Ⅱ		
5	トレーニングと神経		
6	トレーニングと骨		
7	筋力・持久力の発育・発達		
8	全身持久力の発育・発達		
9	トレーニングと加齢		
10	トレーニングと性差		
11	高血圧症と運動		
12	脂質異常症と運動		
13	糖尿病と運動		
14	肥満症と運動		
15	循環器疾患と運動		
16	認知症と運動		
17	転倒防止と運動		
18	運動強度の設定		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合判断		
	備考		

科目名	体育学 講義	1 単位 30 時間	1 学年 後期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では一過性の運動による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	身体組成		
2	骨格筋組成		
3	骨格筋の代謝		
4	呼吸機能		
5	循環機能Ⅰ		
6	循環機能Ⅱ		
7	最大酸素摂取量		
8	乳酸性作業閾値		
9	エネルギー消費量		
10	三大栄養素		
11	ビタミン、ミネラル		
12	運動時のエネルギー補給		
13	エネルギー摂取と消費との関係		
14	環境と身体機能Ⅰ		
15	環境と身体機能Ⅱ		
16	環境と身体機能Ⅲ		
17	環境と身体機能Ⅳ		
18	ドーピング		
教科書及び 参考書	なし		
教授方法			
教材	随時、参考資料を配付		
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

科目名	体育学 実習	1 単位 30時間	1学年 前期
講師名	三浦 哉		
科目の概要	本講義では、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法を実践することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	オリエンテーション		
2	バレーボール（基礎的動作の習得）		
3	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅰ）		
4	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
5	バレーボール（アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ）		
6	バレーボール（スパイクの習得）		
7	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅰ）		
8	バレーボール（コンビネーションプレーの習得Ⅱ）		
9	バレーボール（戦術の習得）		
10	バスケットボール（基礎的動作の習得）		
11	バスケットボール（パスの習得）		
12	バスケットボール（ランニングシュートの習得）		
13	バスケットボール（1 v s. 1 のオフENSE、ディフェンスの習得）		
14	バスケットボール（2 v s. 1 のオフENSE、ディフェンスの習得）		
15	バスケットボール（3 v s. 2 のオフENSE、ディフェンスの習得）		
16	バスケットボール（戦術の習得）		
17	ウォーミングアップ、クーリングダウンの効果		
18	スポーツマッサージの効果		
教科書及び参考書	なし		
教授方法			
教材			
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価		
	備考		

専門基礎分野 1 学年

科目名		解剖学 講義		2単位 60時間	1学年 前期
講師名		木戸玲子			
科目の概要					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	解剖学とは、骨格（１） 総論		17	筋系（１） 総論、頭部の筋	
2	骨格（２） 脊柱		18	骨学・関節学実習（４）	
3	骨格（３） 胸郭、上肢①		19	筋系（２） 頸部の筋	
4	骨格（４） 上肢②		20	筋系（３） 背部の筋	
5	骨格（５） 下肢①		21	筋系（４） 胸部の筋	
6	骨格（６） 下肢②		22	筋系（５） 腹部の筋	
7	骨格（７） 頭蓋①		23	筋系（６） 上肢の筋①	
8	骨格（８） 頭蓋②		24	筋系（７） 上肢の筋②	
9	関節・靱帯（１） 総論、頭蓋の連結		25	筋系（８） 上肢の筋③	
10	関節・靱帯（２） 脊柱の連結		26	筋系（９） 下肢の筋①	
11	関節・靱帯（３） 上肢の連結		27	筋系（10） 下肢の筋②	
12	骨学・関節学実習（１）		28	筋系（11） 下肢の筋③	
13	関節・靱帯（４） 下肢の連結①		29	筋系（12） 筋の神経支配①	
14	骨学・関節学実習（２）		30	筋系（13） 筋の神経支配②	
15	関節・靱帯（５） 下肢の連結②		31		
16	骨学・関節学実習（３）		32		
教科書及び参考書		1）日本人体解剖学（改訂第20版、上・下） 南山堂 2）PT・OT・STのための解剖学 廣川書店			
教授方法		パワーポイント、板書、プリント、実習			
教材					
成績評価		定期試験（筆記試験）を行う。不合格者は再試験を行う。			
備考					

科目名	解剖学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	末梢神経を理解することで、中枢とのつながり（上行性、下行性伝導路）を把握し身体の運動と知覚の理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
1	脳の発生		
2	脊髄神経と神経叢		
3	頸神経叢とその枝		
4	腕神経叢とその枝 ①		
5	〃 ②		
6	胸神経		
7	腰神経叢とその枝		
8	仙骨神経叢とその枝 ①		
9	〃 ②		
10	上肢と下肢の発生にともなう神経分布		
11	脳神経 （1～7 番）		
12	〃 （8～12 番）		
13	脳幹における脳神経核		
14	下行性（運動性）伝導路		
15	上行性（知覚性）伝導路		
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上） 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
授業の前半に前回の復習をする。			

科目名	解剖学 実習	2単位（分担講義） 60時間／90時間	1学年 後期
講師名	木戸玲子		
科目の概要			
回数	講義内容	回数	講義内容
1	細胞	17	消化器（2）
2	上皮組織	18	消化器（3）
3	結合組織（1）	19	泌尿器
4	結合組織（2）	20	皮膚
5	軟骨組織	21	感覚器（1）
6	骨組織	22	感覚器（2）
7	血液（1）	23	感覚器（3）
8	血液（2）	24	生殖器（1）
9	筋組織	25	生殖器（2）
10	神経組織	26	生殖器（3）
11	脈管系（1） 心臓	27	内分泌器（1）
12	脈管系（2） 動脈系①	28	内分泌器（2）
13	脈管系（3） 動脈系②、静脈系、リンパ管系	29	発生学（1）
14	リンパ系組織	30	発生学（2）
15	呼吸器	31	
16	消化器（1）	32	
教科書及び参考書	1）日本人体解剖学（改訂第20版、上・下） 南山堂 2）PT・OT・STのための解剖学 廣川書店		
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習		
教材			
成績評価	定期試験（筆記試験）を行う。不合格者は再試験を行う。		
備考			

科目名	解剖学 実習	2単位（分担講義） 30時間／90時間	1学年 後期
講師名	羽地達次		
科目の概要	神経系の大もとニューロンを理解し、大脳と脊髄（中枢神経）の構造とそこから出る末梢神経の働きを理解する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経とは何か、神経系の系統発生、ニューロン、髄鞘形成		
2	シナプス、神経の変性と再生、中枢神経と末梢神経の概念		
3	大脳の外表面の構造と名称		
4	大脳半球内側面の構造と名称		
5	大脳の機能局在（脳地図など）		
6	大脳内部の構造と名称（基底核など）		
7	〃	（内包、視床、脳室など）	
8	〃	（線維連絡など）	
9	脳幹の構造と名称	（外部から）	
10	〃	（内部、脳神経核、伝導路）	
11	小脳の構造と名称	（外部から）	
12	〃	（内部、小脳核、伝導路）	
13	小脳の働き（特に錐体外路系における役割）		
14	脊髄の構造（知覚と運動）		
15	脊髄神経、自律神経		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学（上） 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂		
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。		
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。		
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。		
	備考		
授業の前半に前回の復習をする。			

科目名	生理学 講義	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
	1. 生理学の基礎知識 生理学とは 生理学で用いる単位 水の性質 水の細胞膜透過 細胞の構造と機能 物質の細胞膜透過 膜の電位と興奮性 細胞の情報伝達機構 2. 神経のはたらき 神経系の構造 ニューロンとシナプス作用 神経の興奮と伝導 中枢神経 末梢神経 自律神経 3. 感覚 感覚の種類 感覚の一般的性質 感覚受容器の機能 体性感覚 内臓感覚 特殊感覚 4. 筋肉のはたらき 骨格筋の構造 骨格筋線維の構造 骨格筋線維のタイプ分類 骨格筋の収縮 ヒトの筋力 筋の障害		
教科書	人体生理学の基礎 改訂第 2 版 (医学出版社)		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	生理学 講義	2単位 60時間	1学年 後期
講師名	江口 覚（20時間） 北岡和義（40時間）		
科目の概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で、非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。		
回数	講 義 内 容		
	5. 血液の作用 （江口先生） 血液の組成 血液型 止血 血液凝固 赤血球沈降速度 免疫性防衛系 6. 体液 （北岡先生） 体液量とその区分 体液の組成 水素イオン濃度と緩衝作用 体液の酸塩基平衡 水分の収支 体液の異常 7. 呼吸 （北岡先生） 呼吸器 呼吸運動 肺容量 換気 肺におけるガス交換 血液によるガスの運搬 肺循環 呼吸運動の調節 呼吸機能障害・異常 運動と呼吸 8. 循環と心臓のはたらき （江口先生） 心臓 血管	9. 食物の消化・吸収 （北岡先生） 消化器系の構成 口腔内の消化 胃における消化 小腸における消化 大腸における消化 排便 吸収 肝臓のはたらき 腸内細菌叢の生理作用 10. 尿の生成と排泄 （北岡先生） 機能からみた腎臓の解剖と生理機能 尿の生成と排泄 腎機能検査 腎臓のその他の機能 11. 体温調節のしくみ （北岡先生） 体熱のバランス 体温の調節 発汗 12. ホルモン作用 （江口先生） ホルモン作用の特色 臓器ホルモン 13. 生殖 （北岡先生） 性の決定 男性生殖器の機能 女性生殖器の機能	
教科書	人体生理学の基礎 改訂第2版 （医学出版社）		
教授方法	講義による		
成績評価	定期試験による		

科目名	運動学 講義	1 単位 30時間	1 学年 後期
講師名	田中弘之		
科目の概要	運動学は、解剖学や生理学等の基礎医学分野を礎として構築され、物理学、心理学、社会学等の多岐にわたる学際的領域の要素をも内包している。 本講では、理学療法や作業療法に有用となる運動学の学理的基础に対する認識を深めるとともに、2年次に開講する運動学実習との連動によって、身体活動を科学的に解析する技能を修得することを目的とする。		
回数	講 義 内 容		
1	力学概論		
2	バイオメカニクス概論		
3	体力医科学概論		
4	運動学総論		
5	運動学各論：骨・関節系		
6	運動学各論：筋系		
7	運動学各論：神経系		
8	運動学各論：感覚器系		
9	運動学各論：呼吸器系		
10	運動学各論：循環器系		
11	運動学各論：代謝系		
12	運動学各論：内分泌系		
13	運動学各論：上肢帯と上肢		
14	運動学各論：下肢帯と下肢		
15	運動学各論：体幹		
16	運動学各論：姿勢		
17	運動学各論：歩行と走行		
18	運動生理学各論：体温調節と暑熱障害		
19	運動生理学各論：運動処方		
20	運動心理学各論：運動発達と運動学習		
教科書及び参考書	中村隆一著「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験等		
	備考		

科目名	人間発達学	1 単位 30 時間	1 学年 後期
講師名	鈴木敏昭		
科目の概要	人の誕生から老年期までの生涯にわたる心身の成長・発達の概要を解説する。 その中で、人の各発達段階における身体生理的特徴、心理的社会的発達の特徴について具体的に学習し、理解を深め、その援助のあり方を追求して、活かせるようにする。		
回数	講 義 内 容		
1	はじめに：人間発達学のねらいと概要		
2	乳児期の身体的生理的特徴		
3	乳児期の心理的特徴と不適応問題		
4	幼児期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
5	幼児期の心理的不適応問題		
6	児童期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
7	児童期の心理的不適応問題		
8	青年期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
9	青年期の心理的不適応問題		
10	成人期の身体的生理的特徴と心理的特徴		
11	成人期の心理的不適応問題		
12	老年期の身体的生理的特徴		
13	老年期の心理的特徴		
14	老年期の心理的不適応問題		
15	まとめと生涯発達心理を理解することの大切さについて		
16			
教科書及び参考書	参考書は適宜紹介する。		
教授方法	毎回プリントを配布しながら、心理テストをまじえて、講義する。		
教材	資料プリント		
成績評価	毎回の小提出物と定期試験などを総合的に評価。		
	備 考		

科目名	病理学	1 単位 30 時間	1 学年 前期
講師名	伊井邦雄 山下理子 渡邊俊介 清水真祐子		
科目の概要	病理学は疾患の原因、病態、症状、経過、合併症、予後を含め、すべての疾患の実体を明らかにし疾患の治療のためにもっとも重要な基礎的及び実質的な事実を知る学問である。総論としてはできるだけ広汎に、各論においては理学・作業療法士が実際に接するであろう代表的な疾患について、できる限り具体的な事柄を詳しく教示する。 病理学は実学であるので、総論、各論を含めできるだけ実例を紹介する。		
回数	講 義 内 容		
1	第16章	造血器系	(山下)
2	第 1・2 章	病理学とは、細胞障害と増殖	(伊井)
3	第 9・10 章	遺伝と先天異常、代謝	(清水)
4	第 3・4 章	修復・再生、循環障害	(伊井)
5	第15章	内分泌	(山下)
6	第 5・6 章	炎症、感染	(伊井)
7	第 7・8 章	免疫、腫瘍	(伊井)
8	第20・21・23章	皮膚、小児、病理診断	(渡邊)
9	第 13 章	呼吸器	(伊井)
10	第14章 A・B	上部・下部消化管	(伊井)
11	第14章 C	肝臓・胆嚢・膵臓	(伊井)
12	第12章	循環器	(清水)
13	第18章 B・19章・22章	脳・神経系、男性生殖器、運動器	(伊井)
14	第17章	泌尿器	(渡邊)
15	第18章 A	女性生殖器・乳腺	(伊井)
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「シンプル病理学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義、スライド等		
教材			
成績評価	定期試験による		
備考			
講義の順序については変更することがある			

科目名	予防理学療法学	1単位 30 時間	令和2年度 1学年 前期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	予防理学療法の分野における領域や制度などを学習し、予防分野における理学療法士の役割や必要な知識を教授する。		
一般目標	予防理学療法の定義、制度などの概説を理解し、それぞれの領域における理学療法士の役割を学ぶ		
行動目標	・予防理学療法の定義について説明できる。 ・予防理学療法にかかわる制度について説明できる。 ・それぞれの領域における理学療法士の役割について説明できる。		
回数	講義内容		
1	予防理学療法学概説① 予防理学療法の定義、予防理学療法の領域		
2	予防理学療法学概説② 予防理学療法にかかわる制度、予防理学療法の研究法		
3	予防理学療法のための理解① 栄養学、スポーツ、コミュニケーションについて		
4	予防理学療法のための理解② 発達と老化、学童期の予防と検診について		
5	予防領域における理学療法士の役割、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームについて		
6	廃用症候群の予防① 運動器の機能低下、転倒、低栄養、口腔・嚥下機能低下		
7	廃用症候群の予防② 呼吸機能低下、心血管機能低下、抑うつ、骨盤底機能低下		
8	認知症の予防、労働災害の予防		
9	再発予防① 脳卒中、心疾患		
10	再発予防② 呼吸器疾患、整形外科疾患		
11	スポーツを利用した予防、メンタルヘルス		
12	ウィメンズヘルス・メンズヘルス		
13	ヘルスキューション		
14	コミュニティ・プロモーションのマネジメント		
15	まとめ		
教科書	予防理学療法要論 医歯薬出版株式会社		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書・プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	保健医療福祉論Ⅰ	1単位 30時間	令和2年度 1学年 前期
担当教員	庚田茂美(理学療法士として実務経験22年)		
科目の概要	わが国における保健制度ならびに医療制度、福祉制度の概要とその仕組み、社会資源の活用などについて教授する。 わが国における人口動態、平均余命、疾病構造の概要の理解を図るとともに、多様化する社会環境の中で、理学療法士に求められるニーズと役割についても教授する。 理学療法の対象となる主要な疾患や障害などの概要を教授し、リハビリテーション理解の促進を図る。		
一般目標	医療・保険・福祉制度の概要、疾病構造と主な疾患や障害について学習する。		
行動目標	・保健に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・医療に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・福祉に関する法律や制度の概要を述べることができる。 ・保健、福祉、医療制度の現状と将来についてその概要を述べることができる。 ・理学療法の対象となる主要な疾患や障害の概要について述べることができる。		
回数	講義内容		
1	国民衛生の動向と医療①:人口動態と人口動態・健康状態と受療状況		
2	国民衛生の動向と医療②:医療と保健の動態、医療対策		
3	医療保険制度とリハビリテーション①:医療制度と医療保険制度		
4	医療保険制度とリハビリテーション②:リハビリテーションの体系と理学療法		
5	医療保険制度とリハビリテーション③:高齢化社会とリハビリテーション		
6	福祉制度について①:制度の概要と仕組み		
7	福祉制度について②:福祉制度とリハビリテーション		
8	健康増進分野の概要と理学療法士の役割		
9	介護保険制度の概要と理学療法士の役割		
10	地域リハビリテーションの概要と理学療法士の役割		
11	理学療法の対象となる主要な疾患や障害の理解①:代謝系・運動器系障害		
12	理学療法の対象となる主要な疾患や障害の理解②:中枢神経系障害		
13	理学療法の対象となる主要な疾患や障害の理解③:生活習慣病・認知症		
14	理学療法の対象となる主要な疾患や障害の理解④:サルコペニア・フレイルなど		
15	理学療法の動向と今後の展望		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	講義プリントを配布する。		
参考書	入門リハビリテーション概論(医歯薬出版)、最新リハビリテーション医学(医歯薬出版)、国民衛生の動向(厚生統計協会)、医療福祉総合ガイドブック(医学書院)、その他 適宜 紹介する。		
教授方法	講義を主軸に展開する。		
教材	プリントを主軸とし、適宜、視聴覚教材を用いる。		
成績評価	前期試験により評価する。		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	保健医療福祉論Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 1学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	理学療法の対象疾患、急性期・回復期・維持期・終末期の理学療法について教授する。保健・医療・福祉制度における理学療法の役割の概要、介護保険制度の概要、地域包括ケアの概要と理学療法の役割、保健・医療・福祉制度の現状と将来について教授する。		
一般目標	保健・医療・福祉制度と理学療法の役割、介護保険制度と地域包括ケアの概要、急性期・回復期・維持期・終末期の理学療法について学習する。		
行動目標	・理学療法の対象となる主要な疾患や障害の概要を述べる事が出来る。 ・急性期・回復期・維持期・終末期の理学療法の概要を述べる事が出来る。 ・保健・医療・福祉制度における理学療法の役割を述べる事が出来る。 ・介護保険制度・地域包括ケアの概要を述べる事が出来る。 ・保健・医療・福祉制度の現状と将来を述べる事が出来る。		
回数	講義内容		
1	障害の捉え方とQOL		
2	理学療法の対象となる主要な疾患や障害：骨・関節系の障害		
3	理学療法の対象となる主要な疾患や障害：中枢神経系の障害		
4	理学療法の対象となる主要な疾患や障害：内部障害と生活習慣病		
5	疾患や障害の経過と理学療法：急性期		
6	疾患や障害の経過と理学療法：回復期		
7	疾患や障害の経過と理学療法：維持期		
8	疾患や障害の経過と理学療法：終末期		
9	医療制度における理学療法		
10	福祉制度における理学療法		
11	介護保険制度の概要と社会的背景		
12	地域包括ケアの概要		
13	障害者総合支援法と障害者の自立		
14	保健制度における理学療法		
15	保健・医療・福祉制度の現状と将来		
教科書	入門リハビリテーション概論		
参考書	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概説		
教授方法	講義		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	リハビリテーション倫理学	1単位 30 時間	令和2年度 1学年 前期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	医療人としてリハビリテーションの概念とそのなかで用いられる障害およびチームアプローチについて理解する。		
一般目標	医療に関わる組織人としての倫理について学ぶ。		
行動目標	・医療提供者としての医療倫理および患者の権利を理解する。 ・人的、組織的および情報等に関する管理を理解する。 ・チーム医療における理学療法士の役割と機能について理解する。		
回数	講義内容		
1	専門職と倫理		
2	インフォームド・コンセントの歴史的背景と法的、倫理的背景		
3	医療従事者の責務		
4	リハビリテーションアプローチについて		
5	EBM		
6	患者や家族とのコミュニケーション		
7	理学療法アプローチと心理		
8	チーム医療における理学療法士の役割と機能		
9	社会人としての接遇とマナー		
10	医療人としての接遇とマナー		
11	リスクマネジメントにも不可欠な接遇		
12	障害と心理		
13	高齢者、障害者への接し方		
14	個人情報の保護について		
15	ISO		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

専門基礎分野 2 学年

科目名	生理学 実習	1 単位 4 5 時間	2 学年 前期
講師名	北岡和義		
科目の概要	1 年次で得た生理学の講義内容について、実習において自らデータ取得および考察を進めることにより深める。		
回数	講 義 内 容		
	オリエンテーション 実習 1. 表面筋電による記録 2. 心電図 3. 息こらえとバルサルバ試験 4. 深部感覚 5. 最大酸素摂取量 6. 酸素負債 7. H反射の測定 8. 2 点識別閾		
教科書及び参考書	「コメディカルのための生理学実習ノート」 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版		
教授方法	学内実習		
教材			
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	運動学 実習	1 単位 45時間	2学年 前期
講師名	田中弘之		
科目の概要	1 年次の講義内容を実習において深める。		
回数	講 義 内 容		
	実習オリエンテーション 実習 1. 筋力測定 2. 循環機能 3. 呼吸機能 4. 感覚と知覚 5. 生体観察 6. 姿勢と歩行 7. 体力テスト 8. 筋電計とガス分析器操作 9. 筋の作用		
教科書及び参考書	「基礎運動学 第6版 補訂」 医歯薬出版株式会社 「運動学実習手引き書」 配付		
教授方法	学内実習		
教材	「運動学実習手引き書」		
成績評価	出席点 レポート点		
	備考		

科目名	臨床心理学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	古川洋和		
科目の概要	臨床心理学の基本的発想を理解する。 一般目標：医療従事者として必要な臨床心理学的発想を理解する。 行動目標：①臨床心理学的支援について説明できる。②代表的な臨床心理アセスメントについて説明できる。③代表的な心の健康問題について説明できる。		
回数	講 義 内 容		
1	臨床心理学の目的		
2	臨床心理アセスメント		
3	心理療法・カウンセリングの基礎的技法① 精神分析療法／来談者中心療法		
4	心理療法・カウンセリングの基礎的技法② 認知行動療法		
5	精神疾患と臨床心理学		
6	発達障害		
7	うつ病		
8	不安障害		
9	統合失調症		
10	認知症		
11	身体疾患と心の健康		
12	ストレスと健康		
13	緩和ケアにおける臨床心理学的支援		
14	リハビリテーションにおける臨床心理学的支援		
15	定期試験の講評とまとめ		
教科書及び参考書	指定しない		
教授方法	講 義		
教 材	スライドならびに配布資料		
成績評価	各回における小テストならびに定期試験		
備 考			
定期試験は、国家試験に準じた形式で出題します。			

科目名	一般臨床医学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	身体に起こる種々の障害の把握とその対応の基礎的な事項について学習する。 病態生理と医学用語の解説、さらに救急救命、外科、脳外科、皮膚、泌尿生殖器、産婦人科、眼、耳鼻咽喉科の疾患に焦点をあて、教授する。		
回数	講 義 内 容		
1	救急医学（心肺蘇生法、ショック、呼吸管理）		
2	〃 （輸血、救急処置）		
3	病態生理・医学用語 （全身症状）		
4	〃 （局所症状）		
5	〃 （局所症状）		
6	〃 （基礎医学）		
7	〃 （基礎医学）		
8	外科総論		
9	脳外科		
10	皮膚疾患		
11	〃		
12	泌尿・生殖器疾患		
13	婦人科・産科疾患		
14	眼疾患		
15	耳鼻咽喉疾患		
16			
教科書及び参考書	「PT・OTのための一般臨床医学 第3版」 医歯薬出版		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	内科学	1 単位（分担講義） 1 6 ／ 3 0 時間	2 学年 前期
講師名	木村 聡		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	消化器疾患 : 食道疾患、胃・十二指腸疾患		
2	消化器疾患 : 腸・肝臓疾患		
3	消化器疾患 : 肝道・膵臓疾患		
4	血液・造血器疾患 : 赤血球・白血球系疾患		
5	血液・造血器疾患 : リンパ系疾患、血漿蛋白の異常、出血性疾患		
6	神経・筋疾患疾患 : 神経学的症状（所見とその意義）		
7	神経・筋疾患疾患 : 神経学的検査、神経系の疾患 1		
8	神経・筋疾患疾患 : 神経系の疾患 2		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	内科学	※ 分担講義	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	臨床医学総論		
2	症状とその臨床的意義		
3	腎臓・水・電解質 1		
4	腎臓・水・電解質 2		
5	免疫・アレルギー・膠原病 1		
6	免疫・アレルギー・膠原病 2		
7	感染症（性感染症）		
8	たばこの害		
9	生活習慣病・メタボリックシンドローム		
10	癌		
11	認知症		
12	脳卒中 1		
13	脳卒中 2		
14	環境要因に基づく疾患		
15	中毒、総括		
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		
※ 前期内科学対応 8回：1単位（16時間／30時間） 後期内科学対応 7回：1単位（14時間／30時間）			

科目名	内科学	1 単位（分担講義） 20 / 30 時間	2 学年 後期
講師名	山田 博胤 若槻 哲三 添木 武		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	循環器内科 ： 1		
2	循環器内科 ： 2		
3	循環器内科 ： 3		
4	循環器内科 ： 4		
5	感染症		
6	代謝・内分泌 ： 1		
7	代謝・内分泌 ： 2		
8	呼吸器 ： 1		
9	呼吸器 ： 2		
10	中毒		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
教科書及び参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第4版」 医学出版社		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験による		
	備考		

科目名	整形外科科学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	整形外科の基礎科学	加藤	
2	整形外科の診断総論	佐藤	
3	整形外科の基礎科学	加藤	
4	整形外科の診断総論	佐藤	
5	整形外科の基礎科学	加藤	
6	整形外科の診断総論	佐藤	
7	整形外科の治療総論	加藤	
8	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
9	整形外科の治療総論	加藤	
10	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
11	整形外科疾患総論 循環・先天異常	加藤	
12	整形外科疾患総論 感染・RA・OA	佐藤	
13	整形外科疾患総論 骨軟部腫瘍	加藤	
14	整形外科疾患総論 代謝性疾患	佐藤	
15	整形外科疾患総論 骨軟部腫瘍	加藤	
16	整形外科疾患総論 神経・筋疾患・ロコモ	佐藤	
教科書及び参考書	「標準整形外科科学 第14版」 医学書院		
教授方法	講義		
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	整形外科学	2単位(分担講義) 60 / 60 時間	2学年 前期
担当教員	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。		
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の内容を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。		
回数	講義内容	講師名	
1	整形外科の基礎科学 骨:構造～修復と再生について	加藤 真介	
2	整形外科の診断総論 主訴・主症状から想定すべき疾患について	佐藤 紀	
3	整形外科の基礎科学 関節:構造～関節軟骨の修復と再生について	加藤 真介	
4	整形外科の診断総論 整形外科的現症の取り方について	佐藤 紀	
5	整形外科の基礎科学 筋・神経:構造～修復再生・痛みについて	加藤 真介	
6	整形外科の診断総論 レントゲン等画像検査について	佐藤 紀	
7	整形外科の治療総論 保存療法について	加藤 真介	
8	軟部組織・骨・関節の感染症について	佐藤 紀	
9	整形外科の治療総論 手術療法について	加藤 真介	
10	関節リウマチとその類縁疾患について	佐藤 紀	
11	四肢循環障害と阻血壊死性疾患・先天性骨系統疾患について	加藤 真介	
12	慢性関節疾患 変形性関節症とその他関節疾患について	佐藤 紀	
13	骨腫瘍について 分類疫学～各種疾患について	加藤 真介	
14	代謝性骨疾患 骨粗鬆症とその他疾患について	佐藤 紀	
15	軟部腫瘍について 分類疫学～各疾患について	加藤 真介	
16	ロコモティブシンドローム・経筋疾患について	佐藤 紀	
17			
18			
19			
20			
	定期試験		
教科書	「標準整形外科学 第14版」 医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	整形外科科学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。特に整形外科科学全般の知識はリハビリテーション医学に必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
回数	講 義 内 容		
	上肢 26－28章 頸椎 29－30章 胸腰椎 31章 股関節 32章 膝関節 33章 足関節 34章 外傷総論 35章 外傷 36－37章 神経損傷 38－39章 スポーツ 40章		
教科書及び参考書	「標準整形外科科学 第14版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	整形外科学	1単位(分担講義) 30 / 30 時間	2学年 後期
担当教員	加藤真介 佐藤紀		
科目の概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。		
一般目標	運動器の正常構造と機能を理解する。 主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。 問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。 慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。 四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。		
行動目標	運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。 各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。		
回数	講義内容	講師名	
1	頸椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
2	肩・肘関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
3	胸椎・腰椎の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	加藤 真介	
4	手関節と手の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
5	外傷とは 捻挫と脱臼、骨折や災害医療について	加藤 真介	
6	股関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
7	軟部組織の損傷 皮膚・筋・腱・血管・靱帯等の損傷について	加藤 真介	
8	膝関節の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
9	骨折・脱臼 成人のと小児の骨折・脱臼について	加藤 真介	
10	足関節と足の機能解剖と診察検査法と各種疾患について	佐藤 紀	
11	脊椎・脊髄損傷の病態や原因～治療について	加藤 真介	
12	末梢神経損傷 病態～代表的な末梢神経損傷について	佐藤 紀	
13	スポーツ損傷と障がい者スポーツについて	加藤 真介	
14	運動器疾患のリハビリテーション 評価～社会保障制度について	佐藤 紀	
15			
16			
17			
18			
19			
20			
	定期試験		
教科書	「標準整形外科学 第14版」医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	定期試験		
備考			

科目名	神経内科学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講 義 内 容		
1	神経疾患の特徴とみかた		
2	〃		
3	障害とリハビリテーションプログラム		
4	中枢神経系の解剖と機能		
5	神経学的診断と評価		
6	神経学的検査法		
7	意識障害, 脳死, 植物状態		
8	めまい, 失神		
9	運動麻痺, 錐体路徴候, 筋萎縮		
10	錐体路徴候, 不随意運動		
11	運動失調		
12	感覚障害		
13	高次脳機能障害		
14	構音障害, 嚥下障害		
15	歩行障害		
16	頭痛, 疼痛		
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第5版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	神経内科学	1 単位 30時間	2学年 後期
講師名	和泉唯信		
科目の概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。		
回数	講 義 内 容		
1	脳血管障害		
2	〃		
3	認知症		
4	〃		
5	パーキンソン病		
6	パーキンソン症候群		
7	脊髄小脳変性症・多系萎縮症		
8	運動ニューロン疾患		
9	免疫性神経疾患（重症筋無力症）		
10	免疫性神経疾患（多発性硬化症，視神経脊髄炎）		
11	神経感染症		
12	てんかん		
13	末梢神経障害		
14	筋疾患		
15	中毒性疾患，栄養欠乏による神経疾患		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第5版」 医学書院		
教授方法			
教材			
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	精神医学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	大蔵雅夫		
科目の概要	精神医学は医学分野の中でも心の障害に関する学問である。身体医学との違いや、精神医学の発展について学んだ後に、様々な精神障害で出現する精神症状について詳細に学習する。さらに精神障害の診断に必要な検査や精神障害の治療方法について学んだ後、精神障害を器質性、機能性、反応性精神障害に分類した上で、代表的な精神障害の症状，診断，予後，臨床薬学を含む治療について学習する。		
回数	講 義 内 容		
1	精神医学の理論と特徴		
2	精神医学と精神科医療の歴史		
3	精神症状（１）意識と記憶の障害		
4	精神症状（２）知覚と思考の障害		
5	精神症状（３）感情と意欲・行動の障害		
6	精神症状（４）脳の機能と高次脳機能障害		
7	精神科診断学（１）精神医学における診察法		
8	精神科診断学（２）画像検査と脳波検査		
9	精神科診断学（３）心理検査		
10	精神科治療学（１）薬物療法		
11	精神科治療学（２）身体療法		
12	精神科治療学（３）精神療法と心理社会的治療		
13	器質性精神障害の症状と治療		
14	機能性精神障害の症状と治療		
15	反応性精神障害の症状と治療		
	定期試験		
教科書及び参考書	コメディカルのための基礎分野テキスト 精神医学（中外医学社）		
教授方法	パワーポイントによる講義		
教材	その都度プリントを配布する		
成績評価	定期試験，出席状況，レポート等を総合評価する		
	備考		

科目名	小児科学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	須賀 健一		
科目の概要	小児は成人と違い、その個体があらゆる面で成長発育の途上にある。小児の健康を守るためには、新生児、乳児期から思春期を経て成人に至るまでの幅広い対象に対する理解が必要である。小児に対する医療においても、成長の各段階にある患者の生理的、心理的特徴を十分理解した上で、先天的な疾患や、成長の過程のトラブルとして起こる、身体的、精神的疾患について幅広い知識をもつことが必要である。そこで、まず小児の成長、発達について概説し、つづいて小児期の主要な疾患、小児保健におけるトピックスなどについて解説する。		
回数	講 義 内 容		
1	発達と発育		
2	生理		
3	栄養		
4	小児保健・事故・救急処置		
5	先天異常		
6	新生児疾患		
7	栄養・代謝性疾患		
8	内分泌疾患		
9	消化器疾患		
10	感染症・呼吸器疾患		
11	中枢神経・筋疾患		
12	血液疾患・固形腫瘍		
13	循環器疾患		
14	アレルギー・自己免疫疾患		
15	腎・泌尿器疾患		
教科書及び参考書	「最新育児小児病学 改訂第7版」 南江堂		
教授方法	講義		
教材	定期試験による		
成績評価			
	備考		
講義開始時間を厳守すること			

科目名	老年学	1 単位 30時間	2学年 前期
講師名	伊井邦雄		
科目の概要	高齢者ではさまざまな疾患が多発し、死亡率を高めるとともに、認知症、ADL（日常生活動作）低下など、要介護高齢者を増加させる。老年医学には単なる診断、治療だけでなく、ケア、リハビリテーション、終末期医療にいたるまでの多領域を包括するところに特徴がある。本講義では高齢者特有の疾患の病態や特徴、さらに生活機能障害の評価について臨床薬学、栄養学を交えて概説する。		
回数	講 義 内 容		
1	高齢者の定義と人口動態		
2	加齢に伴う生理機能の変化		
3	〃 運動機能の変化		
4	〃 精神心理面の変化		
5	高齢者の生活機能の評価、ケア、リハビリテーション		
6	〃		
7	老年症候群		
8	〃		
9	高齢者特有の疾患（感染症）		
10	〃 （循環器、呼吸器）		
11	〃		
12	〃 （消化器、内分泌、血液、免疫）		
13	〃 （精神神経、骨・運動器）		
14	〃 （腎・泌尿器、皮膚、口腔）		
15	〃 （耳鼻咽喉、眼）		
16			
17			
18			
教科書及び参考書	「老年学 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 第5版」 医学書院		
教授方法	口述、板書		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
	備考		

科目名	リハビリテーション医学	1単位 30時間	2学年 前期
講師名	江西 哲也		
科目の概要	理学療法士、作業療法士になるために必要なリハビリテーション医学・医療の基本的な知識並びに考え方を学び、障害を診る心を育て、人々の生活機能の回復・向上に対応する医療・福祉を学ぶ。		
回数	講 義 内 容		
1	リハビリテーション医学・医療の成り立ち、理念、障害学		
2	リハビリテーション医療の急性期・回復期・維持期 保健・医療・福祉の連携		
3	リハビリテーション診療の手順、画像診断、電気生理、ADL		
4	治療手技のあらし、リハ工学		
5	廃用による障害、加齢による障害、発達障害		
6	中枢神経系による運動障害、歩行障害		
7	循環機能障害、呼吸障害		
8	摂食・嚥下障害、排泄障害、褥瘡		
9	高次脳機能障害（失行・失認、言語障害、認知症）のリハ		
10	脳血管障害、頭部外傷のリハ		
11	脊髄損傷のリハ、切断と義手・義足		
12	運動器（RA）疾患のリハ、疼痛のリハ		
13	外傷のリハ、脳性麻痺・筋ジストロフィーのリハ		
14	内部障害・精神障害・悪性腫瘍のリハ		
15	リハビリテーション心理と障害受容 臨床現場での心構え		
教科書及び参考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版 2005		
教授方法	パワーポイント使用		
教材	プリント配付		
成績評価	定期試験		
	備考		

理学療法専門分野 1 年

科目名	基礎理学療法学Ⅰ	1単位 30 時間	令和2年度 1学年 前期
担当教員	向島 充 (理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	現代医療における理学療法について、定義・歴史・業務・治療理論などを学習する		
一般目標	理学療法の原理・役割・医療における位置づけなど、その全体像が把握できるように学習する		
行動目標	・リハビリテーション・理学療法について理解し、説明できる ・理学療法士・作業療法士法について理解する ・理学療法の役割と方法について理解する ・理学療法士の活動分野について理解する ・理学療法記録・症例報告書に記載する項目について説明が出来る ・理学療法の課題と展望について理解する		
回数	講義内容		
1	理学療法の概念		
2	理学療法の歴史・理学療法士/作業療法士法について 1		
3	理学療法の歴史・理学療法士/作業療法士法について 2		
4	理学療法の役割と方法		
5	理学療法士の気質と適正、組織と活動、職業倫理と職業管理		
6	理学療法士教育の理念と目的		
7	理学療法士の活動分野		
8	上記同様		
9	理学療法記録		
10	症例報告の書き方と内容		
11	医療事故		
12	臨床実習のあり方		
13	施設における理学療法士の課題と展開		
14	疾患別における理学療法士の課題と展望		
15	理学療法士の将来について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	理学療法学概論(第4版) 神陵文庫		
参考書			
教授方法	講義		
教材	教科書		
成績評価	レポート10%・定期試験90%		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	基礎理学療法Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 1学年 前期
担当教員	仁木 半 （理学療法士として実務経験7年）		
科目の概要	リハビリテーションの理念と社会的、地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授するとともに、理学療法の役割についても学習する。		
一般目標	リハビリテーションの理念について理解する。		
行動目標	・リハビリテーションの理念について説明できる。 ・リハビリテーションの過程を理解する。 ・理学療法の役割について理解する。		
回数	講義内容		
1	リハビリテーションとは		
2	リハビリテーションの概念		
3	リハビリテーションの目的		
4	リハビリテーションの諸段階		
5	リハビリテーションの諸領域		
6	健康と病気・障がいについて		
7	車椅子操作・体験		
8	車椅子バスケット体験		
9	リハビリテーションの過程		
10	リハビリテーションにおける関連職種		
11	ICIDH		
12	ICF		
13	評価とは		
14	リハビリテーションの手段		
15	理学療法		
教科書	入門リハビリテーション概論 医歯薬出版 プリント		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	試験(90%)・レポート(10%)		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	基礎理学療法学Ⅲ	1 単位 30 時間	令和 2 年 1 学年 前期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	理学療法学の基礎となる語句・身体各部名称・運動方向・ランドマークなどの触診について教授する		
一 般 目 標	理学療法の基礎となる身体各部名称・運動方向・触診について学習する		
行 動 目 標	身体各部の名称が説明できる 関節の運動方向について説明・実技が出来る 触診部位について説明・実技が出来る		
回 数	講 義 内 容		
1	解剖学的方向と位置関係①		
2	解剖学的方向と位置関係②		
3	解剖学的人体の各部名称①		
4	解剖学的人体の各部名称②		
5	解剖学的人体の各部名称③		
6	人体の姿勢と肢位の表現について		
7	関節運動方向上肢		
8	関節運動方向下肢		
9	関節運動方向体幹		
10	ランドマーク触診 上肢①		
11	ランドマーク触診 上肢②		
12	ランドマーク触診 上肢③		
13	ランドマーク触診 下肢①		
14	ランドマーク触診 下肢②		
15	ランドマーク触診 下肢③		
16			
17			
教 科 書 参 考 書	カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法		
授 業 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・プリント・骨標本・人体		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	全講義終了後 触診実技試験 当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	理学療法評価学Ⅰ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	令和2年度 1学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	理学療法の概念を理解し、評価の技術・技能を修得する。		
一般目標	理学療法における評価の意義を理解するとともに、代表的評価法や評価尺度について理解する。		
行動目標	・理学療法における評価の目的とポイントを理解する。 ・理学療法評価における観察の意義を理解する。 ・疾患や病態に応じた必要な医学的情報を選択し、患者の全身状態を把握できる。 ・姿勢検査と形態計測の意義、基本的な項目と方法、手順について理解する。 ・関節可動域測定における基本軸と移動軸について理解する。 ・各関節における関節可動域測定について理解する。		
回数	講義内容		
1	評価の基本概念(本質、目的、視点、構成要素、流れ)		
2	評価の基本概念(記録)		
3	理学療法過程と観察活動		
4	医療面接、一般的評価事項		
5	医学的情報、社会的情報		
6	姿勢と形態(周径、四肢長)		
7	姿勢と形態(周径、四肢長):実技		
8	関節可動域測定について:概論(定義、目的、測定方法、留意事項など)		
9	頸部・上肢の関節運動学		
10	下肢・体幹の関節運動学		
11	関節可動域測定:実技		
12	関節可動域測定:実技		
13	関節可動域測定:実技		
14	関節可動域測定:実技		
15	身体の変形、関節運動学(構成運動、副運動)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	理学療法評価学 I	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	令和2年度 1学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	理学療法の様々な疾患に対する診かたや理学療法の考え方の基礎を中心に確認していく		
一般目標	基礎知識の確認・評価・目標等について学習する		
行動目標	・筋力検査の目的・内容を理解できる ・筋の起始・停止・神経支配・作用等を述べる事が出来る ・各検査が正確に行う事が出来る		
回数	講義内容		
1	筋力測定(MMT)の原理について		
2	MMTとGMT		
3	徒手筋力テストを行うためのテクニック		
4	上肢MMT 肩甲帯に係るテストについて		
5	上肢MMT 肩甲帯に係るテストについて		
6	上肢MMT 肩関節に係るテストについて		
7	上肢MMT 肩関節に係るテストについて		
8	上肢MMT 肘関節に係るテストについて		
9	上肢MMT 手関節に係るテストについて		
10	下肢MMT 股関節に係るテストについて		
11	下肢MMT 股関節に係るテストについて		
12	下肢MMT 股関節に係るテストについて		
13	下肢MMT 膝関節に係るテストについて		
14	下肢MMT 足関節に係るテストについて		
15	徒手筋力テストの限界について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
教科書	新・徒手筋力検査法 第9版 (株)協同医書出版社		
参考書			
教授方法	講義・実技		
教材	教科書		
成績評価	定期試験40%・実技試験60%		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅰ	1単位 30 時間	令和2度 1学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	運動療法の歴史と概念、ならびに各種の運動療法についての基本的知識と運動原理についてこれを教授する。また、運動療法の基礎となる解剖・生理・運動学の知識についてこれを教授する。		
一般目標	運動療法の歴史や原理、基本的運動療法の技術とそれを支える解剖・生理・運動学の知識について学習する。		
行動目標	・運動療法の歴史と概念が説明できる。 ・運動療法を行う上で必要となる解剖・生理・運動学の知識が説明できる。 ・運動を制御し学習するメカニズムを解剖・生理・運動学の知識を用いて説明できる。 ・筋力増強訓練と持久力訓練の理論を解剖・生理・運動学の知識を用いて説明できる。 ・運動器と神経系の病態生理について説明できる。		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション / 運動療法の歴史と概念		
2	運動療法の概要		
3	関節の構造と運動(関節の分類、滑膜性関節の構造、関節の機能)		
4	関節の構造と運動(関節の運動様式、関節と筋収縮、関節運動の制限)		
5	筋と筋収縮(骨格筋の構造、筋収縮のエネルギー)		
6	筋と筋収縮(張力からみた収縮特性)		
7	随意運動と運動制御の生理(随意運動とは何か、随意運動のメカニズム)		
8	随意運動と運動制御の生理(運動を制御する神経経路、脳による運動制御)		
9	運動制御		
10	運動学習		
11	基本的な運動療法(関節可動域訓練)		
12	基本的な運動療法(筋力増強訓練)		
13	基本的な運動療法(バランス訓練)		
14	基本的な運動療法(起立、歩行訓練)		
15	マッサージとリラクセーション		
教科書	標準理学療法学 運動療法学 総論 (医学書院)		
参考書			
教授方法	講義 ・ 実習		
教材	教科書 ・ プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	物理療法学 I	1 単位 30 時間	令和 2 年 1 学年 後期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	理学療法における物理療法の位置づけ、ならびに物理療法の種類や作用機序・原理について理解する		
一 般 目 標	物理療法における生理学・主な病態を理解し、適応と禁忌の生理学的背景からより、効果的な治療法が考慮できるよう学習する		
行 動 目 標	物理療法の歴史・概念を理解する 物理療法のための生理学的について理解し、特性の概要を述べることができる 物理療法の適応となる主な病態について理解する 適応と禁忌およびリスク管理について理解し、より効果的な治療法が考慮できる		
回 数	講 義 内 容		
1	物理療法の歴史・定義・体系・治療目的による分類		
2	物理療法のための生理学：皮膚・体温①		
3	物理療法のための生理学：皮膚・体温②		
4	物理療法のための生理学：皮膚・体温③		
5	物理療法のための生理学：筋①		
6	物理療法のための生理学：筋②		
7	物理療法のための生理学：神経①		
8	物理療法のための生理学：神経②		
9	物理療法のための生理学：温熱の効果①		
10	物理療法のための生理学：温熱の効果②		
11	物理療法のための生理学：寒冷・水の効果①		
12	物理療法のための生理学：寒冷・水の効果②		
13	主な病態の理解：炎症・浮腫		
14	主な病態の理解：疼痛		
15	物理療法の効果・適応と禁忌・リスク管理		
16			
17			
教 科 書	物理療法学		
参 考 書	PT・OT・ST のための解剖学・人体生理学の基礎		
授 課 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・参考書・プリント・物理療法機器		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	義肢装具学 I	1単位 30 時間	令和2度 1学年 後期
担当教員	仁木 半（理学療法士として実務経験7年）		
科目の概要	装具療法の対象となる障がいや疾患、下肢装具の構造や機能、適応について学習する。		
一般目標	下肢装具の構造・機能・適応の理解		
行動目標	・装具の目的を理解する。 ・下肢装具の構造・機能を理解する。 ・下肢装具の適応を理解する。		
回数	講義内容		
1	装具総論:歩行周期		
2	下肢装具総論		
3	下肢装具の種類と名称		
4	下肢装具の部品とその機能		
5	短下肢装具の構造と機能		
6	短下肢装具の種類:適応		
7	長下肢装具の構造と機能		
8	長下肢装具の種類:適応		
9	膝装具の構造と機能		
10	膝装具の種類:適応		
11	股装具		
12	小児の装具		
13	靴型装具		
14	足装具		
15	適合判定		
16			
17			
18			
19			
20			
教科書	義肢・装具学 羊土社		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント		
成績評価	試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

[illegible]

科目名	見学実習	1単位 40 時間	令和2年度 1学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島 充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	1学年後期に配置した臨床実習をいう。基本時間を40 時間とし、これを2期に分け実施する。 理学療法士に係わる事業の体系や目的、理学療法士の役割や業務の概要を理解するとともに、指導理学療法士の下に主要な理学療法対象疾患や障害像を捉える。 医療従事者としての基本的マナーを体験するとともにこれを理解する。		
行動目標	本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 指導理学療法士やスタッフ、職員、並びに理学療法対象者の方々に対して、常に誠意を待って対応するとともに、実習学生として相応しい態度や挨拶、言葉使い等による適切な接遇ができる。 主体的かつ積極的に実習に取り組み、疑問(問題)解決に努め、指導理学療法士の指導の下で、各自が下記の目標の達成を目指すとともに、今後の学習への意欲を高めることができる。 ・病院、施設あるいは理学療法士に係わる事業の体系や目的を理解する。 ・理学療法士の役割、業務、分担等を理解する。 ・理学療法士と係わる他の医療関連職種について、その役割、分担、専門内容の概要を理解する。 ・理学療法士による対象者に対する治療や評価などを観察し、その意義を学ぶ。 ・主な理学療法対象疾患や障害についての特徴的な臨床像の概要を把握する。 ・対象者との良好な関係を構築できる。		
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。		
備考	実習基本時間: ・1日の基本時間は8時間とする。 ・月～金の平日を実習実施日とする。 ・土曜日は調整日とする。 ・日曜日、祝祭日は原則として休日とする。 ・各期の総時間外学習時間は2時間を超えないものとする。 課題: ・臨床実習経験記録(学校指定書式) ・感想文(A4レポート用紙1枚程度;表紙除く) 実習に際する留意点など: ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。		

理学療法専門分野 2年

科目名	理学療法研究法	1単位 30 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半（理学療法士として実務経験7年）		
科目の概要	理学療法を広義の科学的視点で検証する手法を教授する。		
一般目標	研究の必要性を理解し、研究の過程・流れを理解する。		
行動目標	・研究を行う意味、目的の理解 ・研究の過程、流れの理解 ・研究論文作成のプロセスの理解		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	理学療法研究の概要		
3	研究テーマの見つけ方		
4	研究計画		
5	文献の検索・収集の仕方		
6	文献の検索・収集		
7	文献の検索・収集		
8	文献抄録の作成		
9	文献抄録の作成		
10	文献抄読会 1班		
11	文献抄読会 2班		
12	文献抄読会 3班		
13	文献抄読会 4班		
14	文献抄読会 5班		
15	文献抄読会 6班		
16			
17			
18			
19			
20			
教科書			
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・文献		
成績評価	試験(90%) 文献抄録(10%)		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	病態運動学Ⅰ	1単位(分担講義) 30 / 30 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	運動学により修得した人体構造における基礎的知識と技術を臨床的に展開し、運動器疾患や障害の病態を知る。又、病態や障害が運動に与える影響を把握し、問題点の理解ができるようになる。		
一般目標	基礎運動学をさらに進め、病態(障害)時の運動を分析するとともに、問題解決の手法や代償の手段を学習する		
行動目標	・運動分析の手法について説明できる ・目的に応じた適切な運動分析手法を選択できる ・運動分析により対象者の運動の特徴を理解するとともに、他の評価からのデータを統合する事が出来る ・病態や障害による運動の特性を理解し、運動療法的アプローチに活用できる ・ ・		
回数	講義内容		
1	病態運動学の概念について		
2	起立姿勢について		
3	起立姿勢保持のための講中料金の働きと重要度について		
4	成長に伴う姿勢の変化		
5	歩行について:歩行とそうこうの定義		
6	歩行について:歩行周期の表現と理解		
7	歩行について:立脚相と遊脚相		
8	歩行について:重心移動について		
9	歩行について:下肢の関節角度の変化について		
10	歩行について:筋活動と特徴		
11	歩行について:上肢の運動		
12	歩行について:小児・高齢者の歩行の特徴		
13	起立姿勢と歩行障害:病態について		
14	起立姿勢と歩行障害:歩行障害の分類と特徴		
15	歩行の臨床的評価について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 臨床運動学 第3版 医歯薬出版		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	病態運動学Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能と臨床上の問題を軸に学習する。		
一般目標	関節運動、動作分析、異常歩行、病態とエネルギー消費、筋活動と筋張力について学習する。		
行動目標	・関節運動について理解をする。 ・運動分析により運動の特徴を理解するとともに、評価データを統合することができる。 ・動作分析により運動の異常を観察して、その異常な運動を分析および記録することができる。 ・筋の生理について理解し、筋活動時における変化や反応、および要因について述べるができる。		
回数	講義内容		
1	関節の構造と機能、関節の感覚		
2	関節の正常、関節の異常		
3	関節可動性の異常		
4	可動域の制限、関節拘縮		
5	関節拘縮、関節強直		
6	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節確度変化)		
7	正常歩行(筋活動)		
8	歩行障害、歩容について(一般的所見、特殊所見)、異常歩行の診かた		
9	歩行障害、歩容について(一般的所見、特殊所見)、異常歩行の診かた		
10	異常歩行の原因、疼痛による異常歩行、筋疾患による異常歩行		
11	中枢神経疾患による異常歩行		
12	病態とエネルギー消費		
13	運動負荷		
14	筋活動と筋張力(筋の構造、筋の機能、筋電図)		
15	筋活動と緊張力(筋の障害、筋トレーニング)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	臨床運動学(医歯薬出版株式会社) 配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	理学療法評価学Ⅱ	2 単位（分担講義）30/90 時間	令和 2 年 2 学年 前期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解しその検査測定を学習する		
一 般 目 標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する		
行 動 目 標	スポーツ外傷・障害領域の疾患を理解し、説明できる 各疾患における画像より傷害部位の確認ができる その疾患に必要な検査測定項目を挙げることができる 検査測定の目的を述べることができる 必要な検査測定を適切に遂行することができる		
回 数	講 義 内 容		
1	整形外科科学的検査 総論		
2	整形外科科学的検査 実技 肩関節①		
3	整形外科科学的検査 実技 肩関節②		
4	整形外科科学的検査 実技 肘関節		
5	整形外科科学的検査 実技 手関節		
6	整形外科科学的検査 実技 腰部股関節		
7	整形外科科学的検査 実技 膝関節①		
8	整形外科科学的検査 実技 膝関節②		
9	整形外科科学的検査 実技 足関節		
10	整形外科科学的検査 実技 頸部体幹①		
11	整形外科科学的検査 実技 頸部体幹②		
12	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害 膝関節（画像のみかた・評価含）		
13	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害 膝関節の治療		
14	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害 足関節（画像のみかた・評価含）		
15	整形外科疾患 スポーツ外傷・障害 足関節の治療		
16			
17			
教 科 書 参 考 書	理学療法評価法・運動療法学（総論・各論）・運動器疾患の理学療法 標準整形外科学		
教 授 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・参考書・プリント・骨標本・人体		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	理学療法評価学Ⅱ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	的確な、かつ正確な理学療法を施行するためには、障害を正しく評価することが大切である。評価の意義を理解し、正しく施行できるように学習する。		
一般目標	理学療法領域で必要な各種の検査、測定を軸に学習する。		
行動目標	・各種反射を理解し、正しく施行できる。 ・高次脳機能障害の評価について説明できる。 ・運動麻痺の回復段階を理解し、評価することができる。 ・各検査の意義を理解し、述べることができる。 ・脳神経について理解し、評価することができる。 ・脳血管障害における画像情報の評価について理解する。		
回数	講義内容		
1	反射の診かた(腱反射、表在反射、病的反射)		
2	反射の診かた(実技)		
3	反射の診かた(実技)		
4	実技(関節可動域、反射等)		
5	高次脳機能障害(失行、失認)、画像情報の評価		
6	高次脳機能障害(失行、失認)		
7	高次脳機能障害(失語、構音障害)、認知症、画像情報の評価		
8	高次脳機能障害(失語、構音障害)、認知症		
9	片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test)		
10	片麻痺運動機能検査(12段階式片麻痺機能テスト)		
11	感覚検査、疼痛検査、筋緊張検査		
12	脳神経検査、画像情報の評価		
13	脳神経検査		
14	ADL、バランス、歩行の診かた		
15	ADL、バランス、歩行の診かた		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	配布資料 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(伸陵文庫)		
参考書			
教授方法	講義、実技		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	理学療法評価学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 /90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)		
科目の概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する。		
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価方法を身につける。		
行動目標	・各疾患について動作の特徴を理解する ・正常発達を理解し、必要な評価について理解する。 ・知識と技術の統合		
回数	講義内容		
1	動作分析の実際		
2	動作分析:疾患症状別:膝関節疾患		
3	動作分析:疾患症状別:股関節疾患		
4	動作分析:疾患症状別:脳血管疾患の特徴		
5	動作分析:疾患症状別:脳血管疾患・床上動作		
6	動作分析:疾患症状別:脳血管疾患・歩行		
7	正常発達		
8	発達検査		
9	発達検査の実際		
10	脳性麻痺の評価		
11	脳性麻痺の運動療法:痙直型		
12	脳性麻痺の運動療法:アトローゼ型		
13	二分脊椎の評価・画像評価		
14	二分脊椎の理学療法		
15	小児整形疾患・画像評価		
16			
17			
18			
19			
20			
教科書	理学療法評価法 第3版 神陵文庫 新・徒手筋力検査法 原著第9版 協同医書出版社		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	試験・レポート		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	理学療法評価学Ⅲ	2 単位（分担講義）30/60 時間	令和 2 年 2 学年 後期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解し評価・運動療法まで教授する 運動の方法・種類を教授する		
一 般 目 標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する 運動の方法・種類を理解し、症状に合わせて選択する		
行 動 目 標	整形外科領域の疾患を理解し、説明できる 肩関節疾患における画像より傷害部位の確認が出来る その疾患に必要な検査測定項目の選択・目的を述べさらに遂行することができる 各症状・目的に合わせた運動の種類方法の選択、さらに遂行することができる		
回 数	講 義 内 容		
1	肩関節疾患 解剖・運動学①		
2	肩関節疾患 解剖・運動学②		
3	肩関節疾患 各論（画像のみかた含）		
4	肩関節疾患 各論		
5	肩関節疾患 各論①（治療実技）		
6	肩関節疾患 各論②（治療実技）		
7	小児における整形疾患（画像のみかた・評価含）		
8	小児における整形疾患の治療と必要な装具		
9	整形外科領域の運動の種類と方法の選択①		
10	整形外科領域の運動の種類と方法の選択②		
11	整形外科領域の運動の種類と方法の選択③		
12	整形外科領域の運動・ストレッチング講義		
13	整形外科領域の運動・ストレッチング実技①		
14	整形外科領域の運動・ストレッチング実技②		
15	整形外科領域の運動・ストレッチング実技③		
16			
教 科 書	運動器疾患の理学療法・運動療法学（総論・各論）		
参 考 書	標準整形外科学		
授 課 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・参考書・プリント・骨標本・人体		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	理学療法評価学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	生活習慣病と関わりの深い呼吸、循環(末梢循環)、代謝系の評価の意義と流れについて学習する。		
一般目標	呼吸、末梢循環、代謝機能について学習する。		
行動目標	・呼吸器系の生理学について理解し、評価に繋げることができる。 ・呼吸器障害を有する患者の身体的変化について述べることができる。 ・末梢循環障害の病態および評価について理解する。 ・糖尿病について理解する。 ・対象に応じて評価項目を選択し、理学療法士に求められる検査・測定を実行できる。 ・呼吸、末梢循環における画像情報の評価について理解する。		
回数	講義内容		
1	呼吸器系の基本構造と弾性的性質		
2	肺における換気とガス交換		
3	呼吸中枢と呼吸調節		
4	呼吸の身体診察:診察の進め方、正常呼吸と異常呼吸、胸郭の変形、聴診法		
5	呼吸の身体診察:主要徴候(呼吸困難、咳・痰、喘鳴、チアノーゼ)		
6	呼吸の身体診察:主要徴候(胸痛、体重増減、樽状胸、ばち状指)		
7	呼吸機能検査:肺気量分画、フローボリューム曲線、換気機能障害の分類		
8	運動負荷試験		
9	排痰法、体位肺痰法のポジション、画像情報の評価		
10	糖尿病とは(タイプ、合併症、コントロール基準など)		
11	糖尿病の理学療法評価(問診、観察、消費エネルギー、運動機能、再評価など)		
12	糖負荷試験		
13	肥満と糖尿病		
14	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓症血管炎、深部静脈血栓症について(病態、評価など)		
15	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓症血管炎、深部静脈血栓症について、画像情報の評価		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	配布資料		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅱ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)		
科目の概要	理学療法における運動療法の位置づけ並びに、各種の運動療法についての基礎知識と技術を学習する。		
一般目標	脳血管障害に対しての適切な運動療法を選択および統合し、これを実施し得るよう学習する。		
行動目標	・脳血管障害の分類とそれぞれの病態の概要を理解する。 ・片麻痺の運動障害の特徴を述べることができる。 ・高次脳機能障害の概略および評価法について理解する。 ・脳神経検査の概略および評価法について理解する。 ・脳血管障害に対する評価の診かた、考え方について説明できる。		
回数	講義内容		
1	脳血管障害について(脳卒中の分類、陽性徴候と陰性徴候、運動障害とは)		
2	共同運動、連合反応、姿勢反射活動、痙性、病的反射		
3	典型的肢位、ポジショニング		
4	高次脳機能障害(失行、失認)		
5	高次脳機能障害(失行、失認)		
6	言語障害(失語、構音障害)、高次脳機能障害と半球の関係		
7	言語障害(失語、構音障害)、高次脳機能障害と半球の関係		
8	片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test、12段階式片麻痺機能テスト)		
9	脳血管障害の関節可動域テスト、筋力強化テストおよび訓練について		
10	肩甲上腕関節の亜脱臼、肩手症候群、意識障害		
11	片麻痺患者の訓練阻害因子(支持性、重心、姿勢制御、運動調節、学習反復)		
12	片麻痺患者の異常歩行		
13	脳神経検査		
14	脳病巣の局在診断、脳出血部位の鑑別診断、脳血管閉塞部位と臨床徴候		
15	脳血管障害に対する評価について(診かた、考え方)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	配布資料 ベッドサイドの神経の診かた		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント、資料、教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅱ	2単位(分担講義) 30 / 60 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	機能障害の発生のメカニズムとその治療の考え方について学習し、実際の運動療法の施行するための基本的知識について教授する。		
一般目標	機能障害の発生のメカニズムとその治療について学習し、運動療法の基本的知識を習得する。		
行動目標	・代表的な機能障害の定義が説明できる。 ・代表的な機能障害の発生メカニズムを説明できる。 ・代表的な機能障害の治療のエビデンスを説明できる。		
回数	講義内容		
1	炎症		
2	急性痛		
3	慢性痛		
4	創傷		
5	靱帯損傷		
6	腱損傷		
7	骨折		
8	関節可動域制限		
9	筋損傷		
10	筋萎縮		
11	末梢神経損傷		
12	麻痺		
13	筋トーン異常		
14	協調運動障害		
15	意識障害/高次脳機能障害		
教科書	機能障害科学入門		
参考書	標準理学療法学運動療法学総論 標準理学療法学運動療法学各論 基礎運動学		
教授方法	講義		
教材	教科書・プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	末梢神経障害・高齢者の運動療法を提示し、関節可動域・筋力増強等各種運動療法手技・方法などについて学習する。また、QOLについても学習する		
一般目標	末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法、高齢者の運動療法、QOLについて学習する		
行動目標	・ 末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法について述べる事が出来る ・ 高齢者の運動療法について述べる事が出来る ・ QOLについて述べる事が出来る ・ ・ ・		
回数	講義内容		
1	末梢神経障害の基礎知識（末梢神経の解剖・神経繊維の分類）		
2	上記同様		
3	末梢神経障害 総論（末梢神経障害の原因・分類）		
4	末梢神経障害 総論（末梢神経障害の臨床症状）		
5	末梢神経障害 総論（再生・治療方法）		
6	末梢神経障害 各論（腕神経叢麻痺）		
7	末梢神経障害 各論（橈骨神経麻痺）		
8	末梢神経障害 各論（正中神経麻痺）		
9	末梢神経障害 各論（尺骨神経麻痺）		
10	末梢神経障害 各論（総腓骨神経麻痺）		
11	末梢神経障害 各論（脛骨神経麻痺）		
12	末梢神経障害 各論（絞扼性神経麻痺）		
13	高齢者の運動療法について		
14	QOLについて		
15	まとめ		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
	後期試験		
教科書	運動療法学(各論):医学書院、解剖学:医学書院		
参考書			
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	関節リウマチ(RA)、神経筋疾患について理解する。 関節可動域訓練等の各種運動療法手技、技術、方法について実習する。また、主要な疾患に対する運動療法を提示し、これを実習する。		
一般目標	RA、神経筋疾患を理解する。 また関節可動域訓練などの方法を理解し、実施する。		
行動目標	・RA、神経筋疾患の病態、治療法の概要を述べることができる。 ・RA、神経筋疾患に対するリハビリテーションの概要を述べるができる。 ・RA、神経筋疾患に対するADL指導、補装具、家屋構造などを説明できる。 ・関節可動域訓練などの基本的な技術を習得し、模擬患者に対して実施できる。		
回数	講義内容		
1	RAの病態、特徴、症状、治療、経過		
2	RAの評価、運動療法、ADL		
3	筋萎縮性側索硬化症		
4	多発性硬化症		
5	ギランバレー症候群		
6	筋ジストロフィー		
7	重症筋無力症		
8	その他の神経筋疾患(多発性筋炎、皮膚筋炎、シャルコーマリートゥース病、ランバート・イートン症候群)		
9	骨・筋の触察① 上肢		
10	骨・筋の触察② 下肢		
11	骨・筋の触察③ 体幹		
12	関節可動域の理論と実技① 上肢		
13	関節可動域の理論と実技② 下肢		
14	関節可動域の理論と実技③ モビライゼーション		
15	関節可動域の理論と実技④ HOMEエクササイズ		
教科書	標準理学療法学運動療法学総論(医学書院) 標準理学療法学運動療法学各論(医学書院)		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	教科書・プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	運動療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	脊椎・脊髄疾患について理解する。 筋力増強訓練等の各種運動療法手技、技術、方法について実習する。また、主要な疾患に対する運動療法を提示し、これを実習する。		
一般目標	脊椎・脊髄疾患を理解する。 また筋力増強訓練などの方法を理解し、実施する。		
行動目標	・脊椎・脊髄疾患の病態、治療法の概要を述べることができる。 ・脊椎・脊髄疾患に対するリハビリテーションの概要を述べることができる。 ・脊椎・脊髄損傷に対するADL指導、補装具、家屋構造などを説明できる。 ・筋力増強訓練などの基本的な技術を習得し、模擬患者に対して実施できる。		
回数	講義内容		
1	脊髄損傷の病態、病態生理、神経学的評価、		
2	高位評価、横断的局在評価		
3	脊髄疾患について		
4	排尿障害と排便障害、自律神経障害		
5	疫学、麻痺型、機能分類、評価法		
6	合併症		
7	急性期① ポジショニング、ROMエクササイズ		
8	急性期② 筋力増強訓練、姿勢保持		
9	回復期① ROMエクササイズ、筋力増強訓練、バランス訓練		
10	回復期② 移乗動作		
11	回復期③ 歩行		
12	回復期④ ADL		
13	筋力増強訓練① 上肢		
14	筋力増強訓練② 下肢		
15	筋力増強訓練③ 体幹		
教科書	標準理学療法学運動療法学総論(医学書院) 標準理学療法学運動療法学各論(医学書院)		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	物理療法学Ⅱ	1単位 30 時間	2020年度 2学年 前期
担当教員	廣田茂美(理学療法士として実務経験22年)		
科目の概要	理学療法における物理療法の位置づけ並びに疾患や障害とのかかわり、物理療法の目的などについて総論的に教授する。 理学療法で用いられる各種の物理療法について、その原理や効果、適応と禁忌、操作技術、安全管理などについて教授する。 理学療法領域における物理療法のこれからの課題や展開について教授する。		
一般目標	通電療法の基礎と操作、バイオフィードバック療法の基礎と臨床適応、CPM療法について学習する。		
行動目標	・生理的な筋収縮と電気的活動や電気刺激にともなう筋活動について説明できる。 ・通電療法の一般的な原則を述べることができる。 ・通電療法の一般的な適応や禁忌を述べることができる。 ・バイオフィードバックシステムの原理や適応について述べることができる。 ・CPM療法、間欠的空気圧縮法の原則や適応、禁忌を述べることができる。		
回数	講義内容		
1	電気(通電)の生理学 : 刺激と興奮、活動電位、刺激の荷重、強さ時間曲線		
2	: 刺激のパラメーターと筋出力、筋疲労		
3	通電療法(総論) : 通電療法とは、周波数による分類、刺激の要素		
4	: 刺激時間と休止時間、順応、刺激頻度と筋収縮特性		
5	: 鎮痛に対する周波数特性、極性と電気化学的作用		
6	: 電流密度、電気抵抗		
7	通電療法(各論) : 通電療法の分類、電流の種類と波形、直接刺激と間接刺激		
8	: 通電療法の効果、禁忌と注意事項		
9	: 通電療法の一般的原則と手順、治療的電気刺激(TES)		
10	: 経皮的末梢神経電気刺激法(TENS)、機能的電気刺激法(FES)		
11	: 特殊電極を用いた通電療法、高電圧電気刺激法、干渉電流療法		
12	: 骨癒合促進療法の原理と臨床適応、これからの物理療法の展開		
13	神経伝導速度 : 総論、測定法と速度の算定		
14	バイオフィードバック療法 : 定義、機構、利点と欠点、種類と適応疾患		
15	持続的他動運動(CPM)、間欠的空気圧縮法:原理とシステム、臨床適応と禁忌		
	定期試験		
教科書	標準理学療法学 物理療法学(医学書院)		
参考書	物理療法学(金原出版) 最新物理療法の臨床応用(文光堂) 外、適宜紹介する。		
教授方法	講義		
教材	プリント、適宜視聴覚教材を用いる。		
成績評価	定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。		
備考	受講に際する留意点など:物理学(電気:電流、抵抗、電圧)、生理学(神経興奮の伝達と筋収縮機構)についての既習の知識を整理して受講すること。当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	物理療法学Ⅲ	1 単位 45 時間	令和 2 年 2 学年 後期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	理学療法分野における温熱・光線・寒冷・水治・牽引療法について学習する		
一 般 目 標	熱・水・牽引の基礎、生体への影響について学習する 実際の機器の使用方法、管理について学習する		
行 動 目 標	熱伝達の方法について理解し、説明できる 熱・水・光線・牽引が生体に与える影響・効果について説明できる 各療法のリスク管理について説明し、安全な使用方法についても説明・実施できる		
回 数	講 義 内 容		
1	温熱療法総論		
2	温熱療法の生理学①		
3	温熱療法の生理学②		
4	温熱療法 各論ホットパック		
5	温熱療法 各論パラフィン		
6	光線療法総論		
7	光線療法 各論赤外線療法		
8	光線療法 各論紫外線療法		
9	光線療法 各論レーザー光線療法		
10	温熱療法 各論極超短波療法		
11	温熱療法 各論超音波療法①		
12	温熱療法 各論超音波療法②		
13	寒冷療法総論		
14	寒冷療法各論①		
15	寒冷療法各論②		
16	水治療法総論・生理学		
17	水治療法各論①		
18	水治療法各論②		
19	水治療法実技		
20	牽引療法総論・生理学		
21	牽引療法 各論頸椎牽引療法		
22	牽引療法 各論腰椎牽引療法		
23	牽引療法実技		
24			
教 科 書	物理療法学		
教 授 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・プリント・物理療法器具		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	障害対応生活技術論Ⅰ	1単位 30時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	仁木 半（理学療法士として実務経験7年）		
科目の概要	障害者のADLにおいて適切な評価・指導が行えるよう教授する。また、各疾患の病態や障害像に適應した基本的動作の指導法、および、移動補助具の選択・計測・チェックアウトについての知識と技能を教授する。		
一般目標	ADL評価とADL指導に必要な基本的な知識と技術を学習する。		
行動目標	・各種のADL評価法について説明できる。 ・動作分析ができる。 ・ADL評価を障害像の理解と治療計画の立案に結びつけることができる。 ・各疾患の病態や障害像に応じた基本動作・複合動作の指導と介助ができる。 ・各種の移動補助具の計測とチェックアウトができる。 ・各疾患の病態や障害像に応じた移動補助具の選択と指導ができる。 ・各疾患の病態や障害像に応じた住環境整備について説明できる。		
回数	講義内容		
1	ADLの概念と範囲		
2	ADL評価の目的		
3	各種ADL評価法①		
4	各種ADL評価法②		
5	ADL評価法の実際		
6	基本動作とは		
7	基本動作 臥位・座位・四つ這い・膝立ち		
8	基本動作 立位・歩行		
9	複合動作指導		
10	起居・移動動作		
11	身の回り動作		
12	福祉機器・福祉用具		
13	移動補助具・自助具		
14	障害像に応じた起居・移動・移乗動作：中枢神経疾患・神経筋疾患		
15	障害像に応じた起居・移動・移乗動作：骨・関節疾患		
教科書	理学療法学テキストV 日常生活活動(ADL)（神陵文庫） 標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学（医学書院）		
参考書	基礎運動学（医歯薬出版）		
教授方法	講義 ・ 実習		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	障害対応生活技術論Ⅱ	1単位 45 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)・芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	各疾患のADL障害とその指導法について教授する。また、QOLから考える目標設定や社会資源の活用まで含めた広い意味での物理環境アプローチについて教授する。		
一般目標	各疾患のADL障害とQOLを視野に入れた目標設定やADL訓練を学ぶ。		
行動目標	・ADL評価を含めた各評価結果の統合と解釈ができる。 ・各疾患のADL障害を理解し適切な目標設定と治療プログラムの立案ができる。 ・ ・ ・ ・		
回数	講義内容	担当	
1	脳卒中による機能障害の特徴	村上 和広	
2	脳卒中のADL評価とプログラム作成	村上 和広	
3	脳卒中のADL指導時の留意点	村上 和広	
4	脳卒中のADL指導の実際	村上 和広	
5	脳卒中のADL指導の実際	村上 和広	
6	脳卒中の生活関連動作	村上 和広	
7	脊髄損傷のADL指導のポイント	芳野 一也	
8	関節リウマチのADL指導の実際	芳野 一也	
9	人工関節全置換術後のADL指導のポイント	芳野 一也	
10	下肢切断の義足の特徴とADL指導	芳野 一也	
11	上肢切断の義手の特徴とADL指導	芳野 一也	
12	呼吸器疾患・循環器疾患のADL	村上 和広	
13	神経筋疾患・難病のADL	芳野 一也	
14	神経筋疾患・難病のADL	芳野 一也	
15	高齢者の身体機能	村上 和広	
16	高齢者の精神機能	村上 和広	
17	高齢者疾患の特徴	村上 和広	
18	高齢者の転倒予防と生活指導の意義	村上 和広	
19	糖尿病のADL	村上 和広	
20	ストーマのADL	村上 和広	
21	血友病のADL	村上 和広	
22	五感障害のADL	村上 和広	
23	コミュニケーション障害	芳野 一也	
教科書	理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL) (神陵文庫)		
参考書	15レクチャーシリーズ 義肢学 (中山書店) 標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 (医学書院)		
教授方法	講義 ・ 実習		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	義肢装具学Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)・小谷和男(義肢装具士として実務経験31年)		
科目の概要	装具療法について、対象となる疾患や障害、又適応となる装具の構造・機能・適用などについて学習する		
一般目標	上肢装具・体幹装具について、構造・機能・適用を学習する		
行動目標	・上肢装具の構造・適応について述べる事が出来る ・体幹装具の構造・適応について述べる事が出来る ・各装具のチェックアウトや適正症状について述べる事が出来る ・ ・ ・		
回数	講義内容	担当	
1	上肢の解剖・運動学総論	向島 充	
2	上肢装具の目的・原則	向島 充	
3	上肢装具の適合性に関するポイント	向島 充	
4	上肢装具の基本的分類 ～指・手部装具～	向島 充	
5	上肢装具の基本的分類 ～手関節装具～	向島 充	
6	上肢装具の基本的分類 ～対立装具～	向島 充	
7	上肢装具の基本的分類 ～把持装具～	向島 充	
8	上肢装具の基本的分類 ～肘・肩装具～	向島 充	
9	上肢装具の目的・原則	向島 充	
10	体幹装具 頭部・頸部	向島 充	
11	体幹装具 胸部	向島 充	
12	体幹装具 腰部	向島 充	
13	体幹装具 仙部	向島 充	
14	体幹装具 側湾症	向島 充	
15	装具の最新トピックス	小谷和男	
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	15レクチャーシリーズ 装具学:中山書店		
参考書	義肢装具学第4版:医学書院		
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	義肢装具学Ⅲ	1単位 45時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	庚田茂美(理学療法士として実務経験22年)、小谷和雄:22・23分野担当(義肢装具士として実務経験)		
科目の概要	わが国における切断の現況と欧米における切断の相違に検討を加え、これからの切断の動向を論ずる。各種切断の原因と切断法。術後管理、リハビリテーションについて教授する。 下肢義肢の構造的な特性を軸に機能、材料、各種パーツ並びにアタッチメントなどの基礎的知識と適合と修正について教授する。 急速に進化する義肢の今後の展開や方向性について論ずる。		
一般目標	切断法、切断術後の理学療法プログラムや切断者の機能に適合した義肢の選択について学習する。 義肢の構造と機能、装着法、異常歩行の原因と修正、切断者の運動療法について学習する。		
行動目標	・切断原因の動向と切断法、切断の金併症、術後の理学療法についてその概要を述べることができる。 ・切断高位や切断者の機能に応じた義肢の選定ができる。 ・下肢義肢、上肢義肢の構造と機能並びに特色の概要を説明できる。 ・異常歩行の原因を考察するとともにその対策ができる。		
回数	講義内容		
1	切断の原因と動向(総論)		
2	小児切断と高齢者切断の特徴		
3	切断術後の理学療法:在来型の理学療法の展開～術直後義肢装着法		
4	切断術後の理学療法:断端管理とADL指導		
5	義肢の適応と処方基準、切断の分類と名称:義肢の支給体系		
6	義肢の基本的構造と機能・外観の再現		
7	下腿義足①:種類と構造、ソケットの特性		
8	下腿義足②:基本的アライメント		
9	下腿義足③:異常歩行の原因と対策		
10	下腿義足④:足継手の種類と構造、特性、足部の種類と構造		
11	大腿義足①:ソケットの種類と構造、特性		
12	大腿義足②:膝継手の種類と構造、特性:基本的アライメント		
13	大腿義足③:異常歩行の原因と対策		
14	大腿義足④:体験用大腿義足を用いた歩行体験		
15	股義足:ソケットの種類と構造、股継手の種類と構造、基本的アライメント		
16	片側骨盤切断と義肢、膝義足:ソケットの種類と構造、特性、基本的アライメント		
17	膝関節離断用義足:ソケットの種類と構造、特性、リンク膝機構について		
18	サイム義足:ソケットの種類と構造、基本的アライメント		
19	足部部分切断と義足		
20	上肢義肢①:種類と構造、肩甲・胸郭間切断用義手、肩関節離断用義手		
21	上肢義肢②:上腕切断用義手、前腕切断用義手		
22	義肢製作:製作過程、ソケット各論、継手各論、足部各論		
23	義肢の動向とトピックス		
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	義肢・装具学(羊土社)		
参考書	切断と義足(医歯薬出版):義肢装具学テキスト(南江堂):外 適宜紹介する。		
教授方法	実習:講義を含める。		
教材	プリント・資料、義肢、適宜視聴覚教材を用いる。		
成績評価	後期試験により評価する。		
備考	受講に際する留意点など:欠損部位の機能と外観の再現を図る義肢学の理解には、基礎となる解剖学や運動学など既習の知識が不可欠である。当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	疾患別理学療法Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 2学年 前期
担当教員	仁木 半（理学療法士として実務経験7年）		
科目の概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する。		
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価方法を身につける。		
行動目標	・疾患についての基礎知識 ・各評価についての基礎知識 ・知識と技術の統合		
回数	講義内容		
1	感覚の種類・伝導路 感覚障害		
2	感覚障害		
3	感覚検査:意義 目的		
4	感覚検査:表在感覚		
5	感覚検査:深部感覚・複合感覚		
6	徒手筋力テスト:頭・頸部伸展		
7	徒手筋力テスト:頭・頸部屈曲		
8	徒手筋力テスト:体幹伸展		
9	徒手筋力テスト:体幹屈曲・回旋		
10	徒手筋力テスト:手指の解剖・運動学		
11	徒手筋力テスト:手指		
12	徒手筋力テスト:手指		
13	動作の見方		
14	動作分析・正常動作の観察と分析		
15	動作分析・正常動作の観察と分析		
16	試験		
17			
18			
19			
20			
教科書	理学療法評価法 第3版 神陵文庫 新・徒手筋力検査法 原著第9版 協同医書出版社		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	試験・レポート		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	疾患別理学療法Ⅲ	2単位(分担講義) 30 /90 時間	令和2 年度 2学年 後期
担当教員	仁木 半 (理学療法士として実務経験7年)		
科目の概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する。		
一般目標	脳卒中の評価と治療プログラムの作成・実施		
行動目標	・疾患についての基礎知識の確認 ・各評価と治療についての基礎知識の確認 ・知識と技術の統合		
回数	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	脳卒中の症状		
3	脳卒中の評価		
4	脳卒中の治療:急性期		
5	脳卒中の治療:急性期:ステージ別運動療法		
6	脳卒中の治療:急性期:実技		
7	脳卒中の治療:回復期		
8	脳卒中の治療:回復期:理学療法の目標と効果		
9	脳卒中の治療:回復期:基本動作		
10	脳卒中の治療:回復期:実技		
11	脳卒中の治療:回復期:実技		
12	脳卒中の治療:維持期		
13	脳卒中の治療:維持期:サービス提供体制と理学療法		
14	ケーススタディー①		
15	ケーススタディー②		
16			
17			
18			
19			
20			
教科書	中枢神経疾患の理学療法 第2版 神陵文庫		
参考書			
教授方法	講義・実習		
教材	プリント・ビデオ		
成績評価	試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科 目 名	疾患別理学療法学Ⅲ	2 単位（分担講義）30/90 時間	令和 2 年 2 学年 後期
担 当 教 員	松田 寛子（理学療法士として実務経験 5 年）		
科目の概要	骨折・脱臼についての基礎から運動療法に至るまでを教授する 変形性関節症についての基礎から運動療法に至るまでを教授する 心臓の解剖・生理・循環器疾患について教授する		
一 般 目 標	骨折・脱臼についての基礎から運動療法に至るまでを学習する 変形性関節症についての基礎から運動療法に至るまでを学習する 心臓の解剖・生理・循環器疾患について学習する		
行 動 目 標	・骨折の基礎の理解と画像確認より運動療法の流れまでを把握する ・変形性関節症の基礎の理解と画像確認より運動療法の流れまでを把握する ・心臓の解剖・運動・生理の理解と循環器疾患の病態について理解する		
回 数	実 施 講 義 内 容		
1	骨発生の理解		
2	骨折の受傷と骨折の種類（画像による評価）		
3	骨折の症状と合併症		
4	骨折・脱臼各論（画像評価含）上肢		
5	骨折・脱臼各論（画像評価含）下肢		
6	骨折・脱臼各論 下肢・体幹		
7	変形性関節症 総論		
8	変形性膝関節症（画像のみかた・評価含）		
9	変形性膝関節症治療の実際		
10	変形性股関節症（画像のみかた・評価含）		
11	循環器疾患基礎 心臓の解剖・運動・生理①		
12	循環器疾患基礎 心臓の解剖・運動・生理②		
13	循環器疾患 虚血性心疾患		
14	循環器疾患 心不全		
15	循環器疾患 心臓弁膜症		
16			
17			
教 科 書	標準理学療法学 運動療法学総論・運動器疾患の理学療法		
参 考 書	標準理学療法学 運動療法学各論・標準整形外科学		
授 業 方 法	講義・実技		
教 材	教科書・プリント		
成 績 評 価	定期試験		
備 考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	疾患別理学療法学Ⅲ	2単位(分担講義) 30 / 90 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	各疾患の理解・評価・運動療法について理解し、臨床実習がより効果的に進められるようにする		
一般目標	Parkinson病の特徴・評価・運動療法について・運動失調症の特徴・評価・運動療法について・脊髄小脳変性症の特徴・評価・運動療法について学習する。		
行動目標	・各疾患の特徴等基礎知識について述べる事が出来る ・各疾患の運動療法について述べる事が出来る ・各疾患の特徴・基礎知識と運動療法の統合を図る ・ ・ ・		
回数	講義内容		
1	Parkinson病(基礎知識:疾患の特徴)		
2	Parkinson病(基礎知識:疾患の症状・予後)		
3	Parkinson病(症状と評価)		
4	Parkinson病(評価の考え方・統合)		
5	Parkinson病(運動療法について)		
6	Parkinson病(症状と運動療法の実際)		
7	運動失調症(基礎知識:疾患の特徴)		
8	運動失調症(基礎知識:疾患の症状・予後)		
9	運動失調症(症状と評価)		
10	運動失調症(評価の考え方・統合)		
11	運動失調症(運動療法について①)		
12	運動失調症(運動療法について②)		
13	脊髄小脳変性症(基礎知識)		
14	脊髄小脳変性症(評価)		
15	脊髄小脳変性症(運動療法)		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書	運動療法学(各論):医学書院、解剖学:医学書院		
参考書	運動器疾患の理学療法:神陵文庫、中枢神経疾患の理学療法:神陵文庫		
教授方法	講義		
教材	プリント・教科書		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	地域理学療法学Ⅰ 講義	1単位 30 時間	令和2年度 2学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	地域リハビリテーションに関係する法規に触れながら、介護保険制度、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム、介護予防事業などの諸制度において、理学療法士が担うべき役割を理解する。		
一般目標	関連法規や制度の概要など、地域理学療法において必要な知識を学習する。		
行動目標	・介護保険制度の概要が説明できる。 ・障害者総合支援法の概要が説明できる。 ・地域包括ケアシステムの概要が説明できる。 ・介護保険制度の施設サービスおよび居宅サービスの概要が説明できる。 ・居宅理学療法を実施するうえでのリスク管理について説明できる。 ・健康増進への取り組みと介護予防事業の概要が説明できる。		
回数	講義内容		
1	地域リハビリテーションの概念		
2	地域理学療法概念		
3	地域リハビリテーションにおける多職種間連携		
4	介護保険制度の概要		
5	障害者総合支援法		
6	地域包括ケアシステム		
7	介護保険制度…ケアマネジメント		
8	介護保険制度…施設サービスと理学療法士の役割		
9	介護保険制度…通所サービスと理学療法士の役割		
10	介護保険制度…訪問サービスと理学療法士の役割		
11	在宅医療に関わる知識…慢性呼吸不全・嚥下障害・栄養・褥瘡		
12	在宅医療でのリスク管理と評価		
13	健康増進への取り組みと健康日本21		
14	介護予防事業		
15	終末期のリハビリテーション		
教科書	ビジュアルレクチャー地域理学療法学 第3版（医歯薬出版）		
参考書	標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学（医学書院） 運動療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL) 第2版（神陵文庫）		
教授方法	講義		
教材	プリント		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	臨床実習Ⅱ	4単位 180 時間	令和2年度 2学年 通年
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島 充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	2学年に配置した臨床実習をいう。基本時間を180 時間とし、これを2期に分け実施する。 指導理学療法士の指導の下に、代表的疾患や障害に対する基本的な評価実習(観察、面接、検査・測定、統合・解釈)を行い、知識と技術の統合を図る目標を理解し、以下の目標達成に努める。		
行動目標	・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・関連部門(医師・作業療法部門・言語療法部門・義肢装具部門・看護部門・検査部門・ソーシャルワーク部門・介護支援部門等)から必要な情報を収集することができる。 ・適切な評価法を選択し、対象疾患や障害に対する一連の評価計画の立案ができる。 ・評価計画に沿って評価実習を適切な方法で実施し、既習の知識と技術の整理や確認ができる。 ・関連部門からの情報や評価実習によって収集したデータと既習の知識や文献等から得られた知識を比較・考察し、評価対象者の病態や障害像を捉えその概要を要約することができる。 ・評価対象者の活動を制限する因子や参加を制約する因子を考察し、その大要を述べることができる。 ・評価実習中の対象者の状態や変化を観察するとともに、安全性への配慮ができる。 ・指導理学療法士に対する適切な報告・連絡・相談ができるとともに、指示・指導・助言を求めることができる。 ・記録及び報告が適切な時期に正確かつ客観的に行える。 ・対象者および実習指導者との良好な関係を構築できる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組むとともに、疑問(問題)解決に努めることができる。		
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。		
備考	実習に際する留意点など: ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・実習前に評価法(手順等)、評価技術の演習を行い、確認を行うこと。 ・代表的疾患に対する標準的な評価チャートを準備して実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。		

理学療法専門分野 3 年

科目名	理学療法教育管理論	1単位 30 時間	令和2年度 3学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	理学療法の実施に伴う関連法規や規定、職業倫理、接遇とマナーならびにリハビリテーション診療の流れと理学療法の展開、理学療法部門の管理運営（記録を含む）の概要について教授する。		
一般目標	関連法規、職業倫理、部門管理並びに理学療法の記録法と管理について学習する		
行動目標	・理学療法に係わる関連法規や規定の概要を説明できる ・理学療法部門の基本的管理(安全管理・リスクマネジメントを含む)の概要を説明できる ・問題指向型記録法を用い理学療法の記録が出来る ・臨床における実習指導のシステム並びに実習指導者としての教育・指導法についてその概要を説明できる		
回数	講義内容		
1	理学療法の歴史的外観		
2	リハビリテーション診療の流れと管理：理学療法の処方、診療録の作成		
3	理学療法の展開 ：初期検査・初期計画・理学療法の実施と修正		
4	理学療法記録 ：記録の必要性、理学療法経過記録、記録上の原則		
5	：記録上の注意事項、各記録間の意味するもの、実際の記録方法		
6	問題指向型記録 ：POMR(SOAP)について		
7	：サマリー・プロブレムリストの作成など		
8	：プロブレムリスト(具体例:CVAを中心に)		
9	リスクマネジメント ：組織と個人責任、機械器具の点検、治療に関する基本事項		
10	：治療場面におけるリスク管理、周辺環境の安全性など		
11	理学療法士法 ：業務と業務範囲、守秘義務、名称独占と業務独占、免許		
12	：欠格事項、免許の申請、登録、医療過誤と法的責任		
13	身体障害者手帳 ：身体障害者とは、身体障害の区分、障害程度区分、手帳交付申請		
14	診療報酬体系 ：通則、疾患別リハビリテーションの概要		
15	：診療報酬算定に係わる記載項目、管理		
教科書			
参考書	標準理学療法学 理学療法概説 理学療法スーパーバイズマニュアル他		
教授方法	講義		
教材	プリント・資料		
成績評価	定期試験		
備考	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名		総合理学療法学		3単位 90時間		令和2年度 3学年 後期	
担当教員		仁木半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)					
科目の概要		一般的な理学療法を独立して安全に実施する為に必要な既習の知識の再統合を図る。					
一般目標		一般的な理学療法を独立して安全に実施する為に必要な専門知識の再統合を図る。					
行動目標		・各種疾患についての病態が理解できる ・対象者に適した理学療法プログラムが立案できる。 ・立案した理学療法プログラムのエビデンスが説明できる。 ・理学療法を安全に実施する上でのリスクを説明できる。 ・理学療法を行う上での、装具・器械・制度を理解する					
回数	講義内容	担当	回数	講義内容	担当		
1	脳血管疾患	概要と病態の基準	仁木 半	24	呼吸器疾患 必要な器械の理解と支援制度	村上 和広	
2		高齢期疾患と症状の理解	仁木 半	25	概要と病態の基準	松田 寛子	
3		評価選択と実施法	仁木 半	26	臨床症状の理解	松田 寛子	
4		評価結果の理解	仁木 半	27	評価の選択と解釈	松田 寛子	
5		治療技術選択と推論	仁木 半	28	循環器疾患 心電図の基礎と理解	松田 寛子	
6		ケーススタディ	仁木 半	29	治療の立案・選択と推論	松田 寛子	
7		必要な装具の選択	仁木 半	30	ケーススタディ	松田 寛子	
8		ADLに必要な支援と制度	仁木 半	31	必要な器械の理解と支援制度	松田 寛子	
9	運動器疾患	概要と病態の基礎	芳野 一也	32	神経筋疾患	各概要と病態の理解	向島 充
10		臨床症状の理解	芳野 一也	33		各概要と病態の理解	向島 充
11		脊髄・脊椎疾患の病態の理解	芳野 一也	34		評価の選択と実施	向島 充
12		評価の選択と実施の基礎	芳野 一也	35		治療の選択と実施の基礎	向島 充
13		評価結果の解釈	芳野 一也	36	ケーススタディ	向島 充	
14		治療技術選択と推論	芳野 一也	37	代謝・内分泌疾患	概要と病態の理解	向島 充
15		ケーススタディ	芳野 一也	38		必要な治療と教育	向島 充
16		必要な装具の選択と実施	芳野 一也	39		子供の誕生と発達の基礎	村上 和広
17	概要と病態の基準	村上 和広	40	小児科疾患の病態の理解		村上 和広	
18	呼吸器疾患	臨床症状の理解	村上 和広	41	小児科疾患	小児に対する評価の基礎	村上 和広
19		評価の選択と実施法	村上 和広	42		治療の立案・実施の基礎	村上 和広
20		評価結果の解釈	村上 和広	43		治療の立案・実施の基礎	村上 和広
21		治療の立案と実施の基礎	村上 和広	44		小児科疾患に必要な装具理解	村上 和広
22		ベッドサイドでの治療法	村上 和広	45		保護者への支援とこどもへの支援制度	村上 和広
23		在宅での治療の基礎	村上 和広				
教科書		運動学(MDP)・臨床運動学(MDP)・解剖学(医学書院)・標準整形外科学(医学書院) 理学療法評価法(神陵文庫)・運動療法学 総論(神陵文庫)・運動療法学 各論(神陵文庫)・ 運動器疾患の理学療法(神陵文庫)・標準理学療法学 物理療法学(医学書院) 装具学(中山書店)・中枢神経疾患の理学療法(神陵文庫) 標準理学療法学運動療法学総論(医学書院)・標準理学療法学運動療法学総論(医学書院)					
参考書		義肢装具学(医学書院)・機能障害科学入門(神陵文庫)					
教授方法		講義					
教材		教科書・プリント・資料					
成績評価		定期試験					
備考		当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学Ⅳ(小児期)	1単位 30 時間	令和2年度 3学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・ 廣島伸哉(理学療法士として実務経験23年)		
科目の概要	正常発達と小児期にみられる代表的な疾患の病理、発達への影響、治療を理解する。		
一般目標	脳性麻痺および小児期にみられる代表的整形外科疾患を中心に発達障害児に対する治療方法や目的を学習する。		
行動目標	・正常発達や姿勢反射について説明できる。 ・脳性麻痺の代表的なタイプの臨床像を述べ、かつ簡単に治療原則を説明できる。 ・脳性麻痺に対する治療やバランス反応等を実技を交え経験する。 ・小児期にみられる代表的整形外科疾患の症状や治療法を説明できる。 ・ ・		
回数	講義内容		
1	こどもに接するには	:こどものリハビリテーションの特殊性	
2		:発達障害児と接するポイント	
3	正常発達と反射	:小児体験モデル人形	
4	ポジショニング		
5	脳性麻痺について	:脳性麻痺の分類(姿勢・動作分析)	
6		:低出生体重児、ハイリスク児、重症児、運動発達遅滞児	
7	各疾患について	:ダウン症候群、小児整形外科疾患(先天性股関節脱臼)	
8		:ペルテス病、二分脊椎等	
9		:神経筋疾患	
10	小児の装具療法について		
11	ボバース治療概念について	:正常中枢性姿勢制御機構とは	
12	実技	:支持面と姿勢緊張の関係について	
13		:バランス、RIP、KP	
14		:脳性麻痺に対する治療	
15	最近の脳性小児麻痺に対するアプローチ	:PVLとは	
</			

科目名	運動療法学Ⅴ(老年期疾患)	1単位 30 時間	令和2年度 3学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・鶯 春夫(理学療法士として実務経験23年)		
科目の概要	高齢化とも相俟って増加をみせる老年期疾患に対する理学療法並びに地域リハビリテーションの重要性について教授するとともに、アプローチの基礎となる医学的知識や加齢変化と運動療法の特徴やアプローチについて教授する。		
一般目標	加齢に伴う生理学的変化やその特徴を学習する。また、『寝たきり(寝かせきり)』と『認知症』を中心に理学療法士として必要な医学的知識および運動療法の特徴について学習する。		
行動目標	・高齢者の治療や療養、家庭復帰、地域リハビリテーションの概要を説明できる。 ・変形性関節症に対する理学療法プログラムの立案と基本的な運動療法の実施ができる。 ・『寝たきり(寝かせきり)』や『認知症』の概要を説明できる。 ・高齢者に対する理学療法に必要な医学的知識を確認する。 ・高齢者に対する運動療法の特性について説明できる。 ・日常生活行為の支援、物理環境整備、生活構造の拡大などに対するアプローチの概要を理解する。 ・老化と廃用症候群への対策、寝かせきり・座らせきりの改善に対するアプローチの概要を理解する。		
回数	講義内容		
1	:心身機能の加齢変化(1)		鶯
2	:心身機能の加齢変化(2)		鶯
3	:老年期疾患の特徴 (1)		鶯
4	:老年期疾患の特徴 (2)		鶯
5	:廃用症候群とその対策(1)		鶯
6	:廃用症候群とその対策(2)		鶯
7	:廃用症候群とその対策(3)		鶯
8	:寝たきり高齢者の運動療法		鶯
9	:寝かせきりの改善、座らせきりの改善と運動療法		仁木
10	:認知症高齢者の運動療法 (1)		仁木
11	:認知症高齢者の運動療法 (2)		仁木
12	:日常生活行為の支援		仁木
13	:物理環境的アプローチ		仁木
14	:生活構造の拡大化		仁木
15	:ICFに基づいたアプローチ		仁木
教科書	プリント(資料)を配布する。		
参考書			
教授方法	講義 ・ 実習		
教材	プリント ・ 視聴覚教材		
成績評価	定期試験		
備考	講義を軸に、適宜、実技をデモンストレーションする。 スライドを用いた講義などにより、できるだけ現場の雰囲気を伝える。 当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。		

科目名	疾患別理学療法学Ⅳ(呼吸器疾患の理学療法学)	1単位 30 時間	2020年度 3学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験5年)・柳澤幸夫(理学療法士として実務経験17年)		
科目の概要	呼吸リハビリテーションについて、基礎となる聴診やフィジカルアセスメント、胸部画像の基礎、血液ガスの解釈などについて教授するとともに、呼吸介助法や喀痰吸引を含む排痰法の実技を指導する。		
一般目標	呼吸リハビリテーションの概要を理解する。		
行動目標	・呼吸療法の概要が説明できる。 ・基礎的聴診法が理解できる。 ・フィジカルアセスメントの概要を説明できる。 ・血液ガスの基礎的解釈ができる。 ・呼吸介助法、排痰法(喀痰吸引を含む)の基礎的手技ができる。 ・		
回数	講義内容	担当	
1	呼吸リハビリテーションについて:1	柳澤幸夫	
2	呼吸リハビリテーションについて:2	柳澤幸夫	
3	呼吸リハビリテーションのフィジカルアセスメント:1	柳澤幸夫	
4	呼吸リハビリテーションのフィジカルアセスメント:2	柳澤幸夫	
5	呼吸介助法について	柳澤幸夫	
6	呼吸介助法:実技	柳澤幸夫	
7	聴診・排痰法について	柳澤幸夫	
8	聴診・排痰法:実技	柳澤幸夫	
9	酸素療法(HOTを含む)について	村上和広	
10	酸素療法:2・人工呼吸器について	村上和広	
11	胸部画像の基礎知識	村上和広	
12	胸部画像(胸部X線写真)の診方	村上和広	
13	血液ガスの基礎知識	村上和広	
14	血液ガスの異常と解釈	村上和広	
15	呼吸リハビリテーションの実際:(排痰法:吸引を含む)	村上和広	

科目名	疾患別理学療法学Ⅴ	1単位 30 時間	令和2年度 3学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)・井関博文(理学療法士として実務経験19年)		
科目の概要	整形外科的疾患の中でも特に、骨・関節系疾患並びに末梢神経損傷を中心とした理学療法の講義を行う。		
一般目標	骨・関節系統疾患並びに末梢神経損傷に対する理学療法の概要を理解する。		
行動目標	・各種関節機能を理解するとともに、関節疾患の基本的理学療法の構築ができる。 ・各種骨折の治療の概要を理解するとともに、基本的理学療法の構築ができる。 ・末梢神経損傷治療の概要を理解するとともに、基本的理学療法の構築ができる。 ・関節可動域改善のための基本的運動療法手技の実施ができる。 ・ ・		
回数	講義内容	担当	
1	肩関節の理学療法 : 肩関節の機能・解剖	井関博文	
2	: 疾患別の理学療法	井関博文	
3	肘関節の理学療法 : 肘関節の機能・解剖	井関博文	
4	: 疾患別の理学療法	井関博文	
5	上肢骨折の理学療法について	井関博文	
6	末梢神経損傷の理学療法について	井関博文	
7	関節リウマチの理学療法 : 総論	井関博文	
8	: 各論	井関博文	
9	骨折 : 総論	向島充	
10	: 各論 : 大腿骨頸部骨折	向島充	
11	: 各論 : 下肢骨折のX-P	向島充	
12	骨粗鬆症 : 総論 : 運動療法	向島充	
13	膝関節疾患 : 総論(機能解剖) : 理学療法	向島充	
14	関節可動域制限 : 総論 : 運動療法	向島充	
15	: 各論 : 実技	向島充	

[illegible]

科目名	地域理学療法学Ⅱ	1単位 30 時間	令和2年度 3学年 後期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)・藤本厚志(理学療法士として27年)		
科目の概要	介護保険の設立過程やその概要、また介護保険におけるリハビリテーションの意義とその位置づけについて教授する。 障害者自立支技法と障害区分認定プロセス、障害程度と区分の概要並びに老人保健法における保健事業(医療等・機能訓練・訪問指導)の概要と理学療法士の役割について教授する。		
一般目標	介護保険制度及び、障害者自立支援法、老人保健法の概要と理学療法士の役割について学習する。		
行動目標	・介護保険の申請の流れ、サービス内容について説明できる。 ・介護保険、医療保険でのリハビリテーションの違いについて説明できる。 ・退院、退所支援において住宅改修・福祉用具について提案できる。 ・利用者・家族の立場にたったサービスの提案・実施ができる。 ・介護保険制度、障害者自立支援法、老人保健法と理学療法士の役割を説明できる。		
回数	講義内容	担当	
1	介護保険制度導入の背景、制度の概要	藤本厚志	
2	介護保険制度の利用・介護サービス情報の公表	藤本厚志	
3	介護認定調査と要介護・要支援認定の流れ	藤本厚志	
4	介護支援専門員について・地域支援事業・認知症の事例と対応について	藤本厚志	
5	介護保険サービス(在宅)について	藤本厚志	
6	介護保険サービス(施設)について・医療費と後期高齢者医療制度・特定疾患	藤本厚志	
7	生活保護制度・地域権利擁護事業・成年後見制度・障害者自立支援法、重度医療	藤本厚志	
8	住宅改造制度	藤本厚志	
9	介護保険制度とリハビリテーションの概要	向島 充	
10	障害者自立支技法の概要と障害程度区分認定プロセス	向島 充	
11	障害程度区分の基準(区分1～区分6)	向島 充	
12	自立支援法:介護給付、訓練等給付、自立支援医療	向島 充	
13	訓練等給付:自立訓練(機能訓練・生活訓練)と理学療法士の役割	向島 充	
14	老人保健法における保健事業:医療等、機能訓練、訪問指導と理学療法士の役割	向島 充	
15	CBRにおける理学療法士の役割	向島 充	
	定期試験		
		</	

科目名	臨床実習Ⅲ	14単位 630 時間	令和2年度 3学年 通年
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島 充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)		
科目の概要	3学年に配置した臨床実習をいう。基本時間を630 時間とし、これを2期に分け実施する。 既習の知識や技術を統合、展開し、臨床という場でなければ学ぶことのできない接遇や対応、また理学療法の実践的な技術、チームアプローチについて指導理学療法士の下で学ぶ。 理学療法に最低限必要な医療面接や検査・測定を実施するとともに、得られたデータをもとに問題点の抽出や障害となる要因などについて、指導理学療法士の下で考察する。 指導理学療法士の下で、治療(介入)計画の立案を行うとともに、理学療法(運動療法や物理療法等)の実習を行う。		
行動目標	・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・指導理学療法士の指導の下で、理学療法の実習経験をを行い、実習終了時には基本的な理学療法を一応、独立して実施できる。 ・指示や処方内容を正確に読み取ることができる。 ・対象例に即した医学的基礎知識を事前に確認するとともに、医療面接、検査測定の実施並びに記録ができる。 ・対象例の問題点と理学療法士が援助可能な事項を挙げることができる。 ・短期、長期の理学療法目標の設定と目標達成のための理学療法計画の立案が指導理学療法士の下でできる。 ・対象者の変化等に対応した報告ができるとともに、理学療法計画の修正が指導理学療法士の下でできる。 ・対象者に対して丁寧で分かりやすい説明と同意ができる。 ・対象例に即した基本的な運動療法や物理療法等の実施が、指導理学療法士の下でできる。 ・対象者および実習指導者との良好な関係を構築できる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組むとともに、疑問(問題)解決に努めることができる。		
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 :第6章 評価基準(臨床実習の評価)第55条による。		
備考	実習に際する留意点など: ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・実習前に運動療法や評価学、臨床医学一般についての知識の確認を行うこと。 ・実習前に運動療法や評価、物理療法等の技術演習を行うこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。		

学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校 理学療法学科

〒771-4307

徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字平 128-1

TEL (0885)-42-4810 FAX (0885)-42-4815